

## 令和3年度大学入学共通テスト 問題評価・分析委員会報告書（案）（一部）

（第25回大学入試のあり方に関する検討会議提出資料）

※現在取りまとめ中の問題評価・分析委員会報告書のうち、令和3年1月16日及び17日に実施した国語、数学I、数学I・数学A、英語の試験問題に関し、外部評価として、高等学校教科担当教員の意見・評価及び教育研究団体の意見・評価について御報告します。

※大学入試センターにおいて問題評価・分析委員会報告書全体を公表する際には、体裁等の調整を行う場合があります。

# 国語

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

### 1 前文

令和3年度大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、平成25年度入学生から実施された高等学校学習指導要領（以下「指導要領」という。）を踏まえた試験であった。指導要領では、総合的な言語能力を育成する「国語総合」を共通必修科目とし、高等学校「国語」において指導する内容の共通性を重視している。

共通テストでは、指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっており、言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求めることとなっている。

高等学校「国語」教科担当としての立場から、本年度の試験問題を検討した。検討を加える観点として次の点を設定した。

- (1) 問題内容は適切であったか。
- (2) 知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた問題であったか。
- (3) 指導要領に定める範囲内での出題であったか。
- (4) 出題内容に極端な偏りはなく適切であったか。
- (5) 試験時間に照らして適切な分量であったか。
- (6) 設問数・文字数などは適切な量であったか。
- (7) 問題の難易度は適切であったか。
- (8) 学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており、教科・科目の本質に照らし適切であったか。
- (9) 設問形式や配点は適切であったか。
- (10) 文章表現・用語は適正であったか。

以上の観点に立ち、「内容・範囲」「分量・程度」「表現・形式」の面から、第1問～第4問それぞれに検討を加えて、評価し意見を述べる。

### 2 内容・範囲

第1問 フィクションとしての「妖怪」が、どのような歴史的背景のもとで生まれたのかを通史的に論じた文章である。妖怪に対する認識の変容が時系列で整理されており、論の展開がわかりやすく、また抽象的な概念も多く用いられているため、論理的思考力や文章読解力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢字・熟語についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 「民間伝承としての妖怪」がどのようなものか、3段落の文脈を的確に読み取る力を問うている。

問3 本文において、筆者が考えを構築するための分析方法「アルケオロジー」の内容がどのようなものか、6～9段落の文脈をとらえ、語句に注意して読み取る力を問うている。

問4 11～14段落の文脈から「人間」と「記号」との関係についての変容を理解し、そこから「表象」という抽象的な概念についての的確に読み取る力を問うている。

問5 (i) 本文の内容をノートにまとめるNさんの活動の追体験を通して、文章を要約する力、またそれぞれの段落が文章全体においてどのような役割をもつのかをとらえる力を問うている。

(ii) 妖怪がどのような存在であったかということについて、本文で述べられている近世から近代にかけての変化を的確に読み取り要約する力を問うている。

(iii) 別添の資料である『歯車』の一節に描かれている「ドッペルゲンガー」と、本文で述べられている近代の「私」とを関連させて考察する思考力を問うている。

第2問 タイトルにもある「羽織と時計」を中心として、W君の好意に感謝をしつつも重い圧迫を感じてしまう「私」の心情を描いた文章である。大正時代に発表された文章ではあるが、人物の内面についての記述が丁寧に描写されており、心情の変化の把握を中心とした文学的な文章を読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な語句の意味についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 「私」の「擦られるような思」がどのような心情なのかについて、「私」と妻との会話のやりとりを根拠に心情を的確に読み取る力を問うている。

問3 傍線部直前の「常に或る重い圧迫」を根拠に、「私」がW君に対して感謝と重苦しさを同時に抱くという複雑な感情を、文脈からの的確に読み取る力を問うている。

問4 「私」がWくんよりもその妻君の眼を恐れる理由について、傍線部の前後に書かれている内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 傍線部直後に書かれている「実はその折……為めであった」の部分を根拠に、「私」の行動の理由について、場面を適切にとらえる力を問うている。

問6 (i) 本文の批評にあたる資料を示し、その批評文が言わんとしていることを的確に読み取る力を問うており、作品を多角的に解釈する姿勢を求めている。

(ii) 批評文の評者とは異なる視点から本文の表現について評価する力を問うており、他の文章と比較し論じる姿勢を求めている。

第3問 平安時代の歴史物語『栄花物語』からの出題。妻に先立たれた藤原長家が、和歌を交えながらその悲しさを表現する場面である。敬語を含め、古文特有の語句も多く用いられており、さらに和歌も数首含まれている。古文を的確に読み取る力、またその内容の豊かさを理解する力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な基本的な単語・敬語・文法の知識を問うている。

問2 傍線部直前の「よろし」という語句の意味や、そののちに進内侍と贈答歌を交わしている文脈を根拠として、本文全体を総合的に読み取る力を問うている。

問3 傍線部を含む本文の最後の段落に書かれている内容について、語句を根拠とし、その文脈を的確に読み取る力を問うている。

問4 登場人物の言動や和歌の内容を正しく整理し、本文全体を総合的に読み取る力を問うている。

問5 本文と同じ状況で詠まれた別の和歌を『千載和歌集』から引用し、三首それぞれの和歌を適切に解釈する力を問うている。また、本文単体の読み取りに終始せず、他の資料と比較することで多角的に解釈し、読解を深めていく姿勢を求めている。

第4問 『欧陽文忠公集』から「有馬示徐無黨」という五言古詩、そして『韓非子』の一節からの出題。いずれも馬車を操縦する「御術」について書かれたものである。漢文に用いられる基本的な句法、および総合的な読解力を確認する上で適切な素材文であった。

- 問1 漢文特有の語についての基本的な知識を問うている。
- 問2 基本的な句法や漢字の読みについての知識を活用して、本文の語句の意味を適切に解釈する力を問うている。
- 問3 漢詩に用いられる押韻に関する基本的な知識を問うとともに、異なる文章を活用して本文の内容を適切に解釈する力を問うている。
- 問4 本文の読解に必要な返り点の付け方と書き下し文についての知識・技能を問うている。また漢詩の文脈を的確に読み取る力もあわせて問うている。
- 問5 傍線部内に含まれる漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし、前後の文脈とあわせて本文を的確に読み取る力を問うている。
- 問6 「御術」について書かれた二つの文章について多角的に解釈し、それぞれの内容を的確に読み取る力を問うている。

### 3 分量・程度

#### (1) 設問数について

制限時間 80 分に対して大問は 4 問で、大問ごとの設問数は第 1 問と第 3 問で各 5 問ずつ、第 2 問と第 4 問で各 6 問ずつであった。全体の解答数は 38 で、適切であった。

(昨年度のセンター試験：大問ごとの設問数は各 6 問ずつ。全体の解答数は 35。)

#### (2) 難易度について

第 1 問は、本文及び設問中の【ノート】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。設問は、指導要領や生徒の学習の過程を意識した場面設定を踏まえており、難易度としては適切であった。

第 2 問は、本文の場面設定や設問中の【資料】が大正時代のものであったが、基本的な読解力を判定する上で、文章量は適切であった。問 6 のように、本文に関係する資料から情報を得て、多角的な視点から解釈する力を判定する設問もあり、難易度としては適切であった。

第 3 問は、本文及び設問中の【文章】を合わせて、文章量は適切であった。単に文法事項を問うことなく、敬語を含めた基本単語の知識を活用して解釈したり、関連する【文章】を踏まえて考えたりする設問があり、古文の学習成果を見る難易度としては適切であった。

第 4 問は、漢詩と文章のほか、挿絵を加えた出題で文章量は適切であった。異なる種類の文章を組合せた複数の題材から考える設問も含め、基本的な知識の定着など漢文の学習成果を見る難易度としては適切であった。

全体的に、難易度は適切であった。

### 4 表現・形式

#### 第 1 問

〔問 5〕本文を授業で読んだ生徒が、文章の構成や展開についてノートに整理し、さらに出典の別の部分に注目して書かれている内容を考察し、素材文の理解をより深めるという学習場面が設定されており、このことは問題作成方針に合致したものであり、適切である。

リード文において「内容をよく理解するために」という用語を使用していることで、目的意識をもった学習活動であることが明示され、日頃の学習活動を踏まえたものであったと考えられる。また、配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

#### 第 2 問

〔問 6〕本文が発表された当時の新聞紙上に掲載された批評文を資料として、文章を批評する学習場面

が設定されており、問題作成方針に合致している。

(ii)では本文中の表現の「繰り返しに注目し、評者とは異なる見解を提示した内容」を選べ、という表現を用いて、受験者の思考力・判断力・表現力等を測る工夫が見られた。

また、配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

### 第3問

〔問5〕贈答歌を取り上げ、本文と同一の状況でありながら、本文とは異なる返歌が詠まれている別の出典を取り上げて、二つの返歌の表現や内容の違いを中心に考察する設定の問題で、授業で生徒が学習する場面を意識しており、問題作成方針に合致している。

表現や用語も受験者の混乱を招くものではなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

### 第4問

〔問3〕〔問6〕「御術」を話題にした、漢詩と文章を素材文として取り上げ、漢詩の押韻や「御術」に必要なことについて考えさせる形式の問題となっている。文章の内容を踏まえて漢詩の理解を深める授業場면을想定した問題であり、問題作成方針に合致している。

表現や用語も受験者の混乱を招くものではなく、適正であった。〔問6〕の配点は9点と国語の全ての問題で最も高かったが、難易度はさほど高くなく、解答に時間を要する問題ではないため、もう少し低い得点設定でも良かったと思われる。

難易度がさほど高くないことと解答に要する時間とのバランスを考えると、配点の設定の妥当性について、今後検討していただきたい。

## 5 まとめ（総括的な評価）

従前実施のセンター試験「国語」において出題されてきた良問の蓄積を基盤とし、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視すると共通テスト問題作成方針に則した良問が出題されたことを評価する。今後、高等学校での学習を通して受験者が身に付けた力を評価するのに適切な問題が作成され、また、生徒の言語能力を育成する高等学校国語科の授業づくりに資することを期待して、意見・要望を以下に示す。

- (1) 「国語総合」の枠の中で指導要領に沿った問題作成がなされていた。学習者による「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた設問が大問ごとに出題されており、言語活動の過程を踏まえた場面や複数の題材を統合して考察する場面の設定により、平素の学習活動を通して身に付けた力を評価することのできる設問となっている点は評価される。
- (2) いずれの大問においても、本文が比較的平易で適量であり、時間内でテキストの細部を検討したり全体の要旨を把握したりして読み、設問の意図を捉えて選択肢を吟味することが可能であったと思われる。本文と関連付けて考察することを求める【資料】や【文章】も量、難易度とも適切であった。次年度以降も同様の配慮により、受験者が十分に思考し、判断する時間が確保されることを求めたい。
- (3) 共通テストにおいては、生徒が「どのように学ぶか」を重視していることが十分に感じられるものであった。ねらいを明確にした言語活動の設定、批評文や同一の状況で詠まれた異なる和歌の提示にみられる教材の工夫、提示されたテキストの異同に着目して内容を考察する学習課題など、授業改善の視点から大いに示唆に富むものであった。このような出題が国語科における授業改善を促し、生徒の言語能力の育成に資するよう今後とも工夫を凝らした出題がなされることを期待する。

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 日本国語教育学会

#### 1 前 文

##### (1) 現代文分野

評論は、文章量・論理展開・言葉の定義など、バランスがよく問題として適切である。ただし、国語総合としてはやや難しかった。小説は、発表年の古さによって受験者との距離が生じた題材であった。そのため、注も多くなってしまっており、状況をふまえた読解が難しかったと思われる。大学入試センター試験の傾向と「同じところ」と「異なるところ」が示され、国語の授業のあり方について考えさせ、教育の現場につながる問題であったと感じた。

##### (2) 古典分野

古文と漢文の問題の方向性が違いすぎる。語句問題で古文は応用的な力が問われているが、漢文は基本的な知識確認にとどまる。読解問題も古文は文法と読解をからめた問題があったが、漢文は句法を単純に問う問題と、難易度が大きく異なる。今後は方向性のバランスをとっていく必要があると思われる。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 実用的な文章・図表との比較なども予想されたが、例年通りとも言える評論文だった。ただし、学習者のノートや他の文章との比較など、新しい傾向は示されている。選びぬかれた素材・問題であると感じた。

問1 従来の5択が4択になっている意図がわからない。難易度を下げたためだろうか。

(ア)「公序良俗」(ウ)「援用」は語彙として難しめ。

問2 問うべき問題。誤答である根拠が単語のレベルでわかるようになっており、他の問題でもそのような誤答が目立った。

問3 リード文・本文における言葉の定義をおさえる問題であり、適切。時間はかかるものの、選択肢の正誤がわかりやすく、迷うことはない。

問4 本文中の変化の理解を問う問題であり、適切。⑤がやや紛らわしい。消去法などの受験のためのテクニックで解くことになる。

問5 新しい傾向の問題。知識・技能だけではなく、思考・判断・表現の力を共通テストに組み入れようとした問題か。リード文も丁寧で良い。実際の学習場面を想像させる。新しい学びの力にもつながっている。特にノート3では、評論と文学的な文章が合わさっており、今後の「文学国語」「論理国語」の扱いにも関係するだろう。空欄Vの内容を記述で書くように問われたら、おそらくこの答えにはならない。また、生徒が自主的に作るノート、という設定にも無理があると感じた。工夫すべきところである。新しい問いのかたちとしての意欲を感じ、実際の学習の現場にもつながる問題であった。

第2問 注の丁寧な読み取りを求められる問題だった。

問1 難しくはないが、(ウ)は現在ではあまり使わない言い回しである。

問2 解きやすかった。文章が古いぶん、解きやすくしているのだろうか。

問3 誤答の外し方が目立つ問題。正答には納得するが、やや抽象度が高い選択肢であった。

問4 問うべき問題。文学的な文章の問題としてはオーソドックスだが、正答が言い尽くしていない。誤答が明確なので、消去法で解くことになる。

問5 流れをつかんで答える問題。箇所として適切。授業であれば、いろいろな解釈が出てくところだが、単純化している（問題としてやむをえない）。③は省略がある文章（～できれば）になっており、選択肢として不適。④の文末が他の選択肢とまとめ方が異なる。

問6 新しい問題。批判的な文章を示し、読みの多様性を示しており面白い。しかし、第一問と比べると学習者の設定があるわけでもなく、中途半端。批判的な文章と、さらにそれとは異なる見解という問題の意図が見えにくく、問題のための問題になってはいないか。また、この同時代評は適切な批評なのか。読み比べや解釈の多様性など、実際の授業にもつながる問題ではあったが、課題も残る。

第3問 人物関係図がすっきりとまとまっていてわかりやすい。千載和歌集との比較の問題は読解を深めていくという意味では適切。文章量は適切、一文の長さ、内容のテーマも典型的な古文だった。心情展開が乏しいので、和歌を通して心情を追いかけていくのはやや難しい。

問1 (ア)(ウ)基本単語から文脈に応じて意味を考える応用的な問題。今後古文読解における単語力を高校生に対してどこまで求めるか。(イ)は標準的な問題。

問2 「よろし」の解釈が難しい。受験者にとって「よろし」は「悪くない」とポジティブに捉えることが多いと思われる。問1(ア)と同じでどこまで高校生に単語力を求めるか。

問3 文法と内容理解をからめた問題。読解のために文法力を問うという姿勢はよい。

問4 平易な問題だが問うべき問い。もう少し難易度を上げるならば、登場人物が多いので、正解を複数にしてもよかった。

問5 資料を示し読解を深めていく問題で新傾向だが、配点が高すぎるのではないか。

第4問 文章は適切なレベル。ただ、この二つの文章を比較読みさせる必然性や関係性が薄いのではないか。

問1 漢文語句問題として標準レベルの問題。

問2 難易度は古文と比べると易しく、配点を考えると古文の語句問題との難易度のバランスをもう少し考えてもよいのではないか(古文語句問題が難しい)。(2)現代語に通じる語彙力という意味では良い問題。

問3 妥当な問い。二つの文章を用いているのでこの問は必要。

問4 これからの言語文化を考えていくときに、漢文の白文を読む能力を求めていくことが適切か。白文を書き下す問題は一考の余地があると思われる。

問5 対句をきちんと見れば難しくない。良問。

問6 問うべき問い。正解選択肢のまとめ方も妥当。

# 数 学

## 数学 I， 数学 I ・ 数学 A

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 数学 I， 数学 I ・ 数学 A

##### 1 前 文

令和 3 年度（第 1 回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）が実施された。共通テストは、大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており，この目的自体は，従前の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と基本的に同じである。

一方，共通テストでは，平成 21 年告示高等学校学習指導要領（以下「指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっており，数学においても，数学的な問題解決の過程を重視し，事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと，構想・見通しを立てること，目的に応じて数・式，図，表，グラフなどを活用し，一定の手順に従って数学的に処理すること，及び，解決過程を振り返り，得られた結果を意味付けたり，活用したりすることなどを求めることとなっている。従前のセンター試験では数学的内容に関する知識・技能や文脈に沿って一定の手順で数学的に処理する思考力等に焦点が当てられていたのに対し，共通テストではそれらの力に加え，構想・見通しを立てたり，解決過程を振り返って考察したりするなどの思考力等にも焦点を当てて受験者の能力を測定しようとしている。

ここでは，本年度の問題について以下の視点から分析し，上記の共通テストの目的や趣旨が実現されているかどうかについて評価したい。

- 問題内容は適切であったか。
- 知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め，バランスのとれた出題となっているか。
- 指導要領に定める範囲内で出題されていたか。
- 出題内容に極端な偏りはなく適切であったか。
- 試験時間に照らして適切な分量であったか。
- 設問数・文字数等は適切な量であったか。
- 問題の難易度は適切であったか。
- 学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており，教科・科目の本質に照らして適切であったか。
- 設問形式や配点は適切であったか。
- 文章表現・用語は適正であったか。
- 図表や写真の扱い及び量は適切であったか。

## 2 内容・範囲

### 「数学Ⅰ」について

#### 第1問

##### 〔1〕(数と式, 二次関数)

- (1) 二次式の因数分解についての基本的な知識・技能を問うている。
- (2) 二次方程式の解の公式を活用し, 一定の手順に従って数学的に処理する力を問うとともに, 数学的な見方・考え方を基に, 不等式を満たす整数について考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。
- (3) (1), (2) の考察を基に, 二次方程式が異なる二つの有理数解をもつための条件について発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。

いずれの設問内容も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。問うべき資質・能力についてもバランスがとれている。

##### 〔2〕(数と式)

- (1) 集合についての基本的な知識・技能を問うている。
- (2) (1)の解決過程を基に, 集合の要素や集合に関する条件の関係性について, 数学的な見方や考え方を基に, 的確かつ能率的に処理する力を問うている。

いずれの設問内容も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。問うべき資質・能力についてもバランスがとれている。

#### 第2問 (図形と計量)

- (1) 鋭角の三角比の相互関係や余弦定理についての基本的な知識・技能を問うている。
- (2) (1)の考察を基に, 与えられた式の符号について, 余弦定理を活用して発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。
- (3) (1)の考察を基に, 三つの三角形の面積の関係について, 発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。
- (4) それまでの考察を基に, 問題の本質を見いだす力を問うとともに, 六角形の面積を一定の手順に従って数学的に処理する力を問うている。
- (5) 外接円の半径の大小関係について, 正弦定理に着目して問題を解決するための見通しを立て, 一定の手順に従って数学的に処理する力を問うている。また, その解決過程を基に, 四つの三角形の場合について, 発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。
- (6) (3)の考察を基に, 内接円の半径が最も大きい三角形について, 発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。

いずれの設問内容も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。数学の事象から問題を見だし, その解決過程に基づく統合的・発展的な考察を重視して問うており, 思考力に焦点をあてた設問として評価できる。

#### 第3問

##### 〔1〕(二次関数)

- (1) 二次関数についての基本的な知識・技能を問うている。
- (2) 二次関数のグラフと  $x$  軸との共有点についての基本的な知識・技能を問うている。
- (3) 二次関数のグラフと  $x$  軸との共有点について, 二次方程式の実数解の個数を考察する問題へと焦点化し, 一定の手順に従って数学的に処理する力を問うている。
- (4) (2)の考察を基に, 二次関数のグラフと  $x$  軸との関係について, 一般的な条件を演繹的に推論

する思考力・判断力・表現力等を問うている。

いずれの設問内容も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。問うべき資質・能力についてもバランスがとれている。

#### 〔2〕(二次関数)

- (1) 短距離 100m 走に関する事象において、タイムとストライド、ピッチとの関係に着目し、数学的な問題を見いだす力を問うている。
- (2) 表中のデータを用いてストライドとピッチの関係を一次関数で表現し、その関係式を用いてストライドの範囲について一定の手順に従って数学的に処理する力を問うている。更に、タイムの最小値をそれまでの考察結果を基に二次関数の式やグラフを活用して考察し、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力を問うている。

いずれの設問内容も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。日常生活の事象の数学化と、得られた結果の意味付けを重視して問うており、思考力に焦点をあてた設問として評価できる。

#### 第4問(データの分析)

- (1) 統計量についての基本的な知識・技能を問うている。
- (2) 箱ひげ図についての基本的な知識・技能を問うている。
- (3) (2)で見いだした箱ひげ図に関する事柄等を利用し、概念を広げたり深めたりする思考力・判断力・表現力等を問うている。
- (4) 二つの散布図群を比較し、数学的な見方や考え方を基に、相関の強さを的確かつ能率的に処理する力を問うている。
- (5) 男性の就業者数割合の散布図を活用し、数学的な見方や考え方を基に、女性の就業者数割合の散布図を論理的に推論する力を問うている。

いずれの設問内容も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。問うべき資質・能力についてもバランスがとれている。

#### 【総合所見】

全体を通して、数学Ⅰの全範囲から偏りなく出題されており、設問内容も指導要領の範囲内であり適切であった。従来のセンター試験で問われてきた一定の手順に従って数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活の事象を数理的に捉える力や、問題解決に向けて構想・見通しを立てる力、解決過程を基に、得られた結果を意味付ける力等もバランスよく問うている。

#### 「数学Ⅰ・数学A」について

##### 第1問

- 〔1〕 「数学Ⅰ」の第1問と同じ。
- 〔2〕 「数学Ⅰ」の第2問と一部同じ。

##### 第2問

- 〔1〕 「数学Ⅰ」の第3問〔2〕と同じ。
- 〔2〕 「数学Ⅰ」の第4問と一部同じ。

##### 第3問(場合の数と確率)

- (1) 独立な試行の確率に関する基本的な知識・技能や一定の手順に従って条件付き確率を求める力を問うている。
- (2) (1)で求めた条件付き確率の特徴を捉え、数学化する力を問うている。

- (3) (1), (2)で見いだした結果・知識を既習の知識と結び付け、箱が二つから三つになった場合の条件付き確率について、統合的・発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。
- (4) これまでの考察を基に、箱が四つになった場合の条件付き確率について、概念を広げたり深めたりする思考力・判断力・表現力等を問うている。

いずれの設問も指導要領の範囲内であり、高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。(4)はやや難しいものの、問うべき資質・能力についてもバランスがとれている。

#### 第4問 (整数の性質)

- (1) 円周上の点の移動について、不定方程式の基本的な知識・技能を活用し、一定の手順に従って数学的に処理する力を問うている。
- (2) (1)の解決過程を基に、新たな不定方程式の整数解を求めさせる思考力・判断力・表現力等を問うとともに、得られた結果を元の円周上の点の移動に関する事象に戻してその意味を考える力を問うている。
- (3) (2)と設問中の注釈を基に、不定方程式の整数解の和の最小値を考察する問題へと焦点化し、数学的な見方や考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力を問うている。
- (4) これまでの考察を基に拡張・一般化させ、様々な不定方程式の整数解の和の最小値を考察する問題へと焦点化し、(2), (3)の解決過程を基に、統合的・発展的に考察する思考力・判断力・表現力等を問うている。また、得られた結果を元の円周上の点の移動に関する事象に戻してその意味を考える力を問うている。

いずれの設問も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。点の移動と不定方程式を組み合わせてあり、目新しく斬新な問題である。

#### 第5問 (図形の性質)

直角三角形を利用し、角の二等分線の性質や三角形の相似、内接円・外接円の性質、方べきの定理等についての基本的な知識・技能を問うている。また、数学的な見方や考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力を問うている。

いずれの設問も指導要領の範囲内かつ高等学校で学習する基礎的・基本的事項であり適切である。方べきの定理に関する設問がやや多いものの、数学的な見方・考え方を基に、統合的・発展的に考察する力まで問うており、バランスのとれた良問である。

#### 【総合所見】

全体を通して、数学 I 及び数学 A の全範囲から偏りなく出題されており、設問内容も指導要領の範囲内であり適切であった。従来のセンター試験で問われてきた一定の手順に従って数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活の事象を数理的に捉える力や、問題解決に向けて構想・見通しを立てる力、解決過程を基に、得られた結果を意味付ける力等もバランスよく問うている。

### 3 分量・程度

#### 「数学 I」について

全問必答

#### 第1問

- 〔1〕 基本～標準的な難易度の設問で構成されており、設問数は試験時間に照らして適切である。文字数についても会話文が必要かつ最小限なものに設定されており適切である。(3)は現状の受験者にはやや難易度が高かったと考えられるものの、今後の学びの質を向上させるため

にこのような設問は必要である。

- 〔2〕 基本～標準的な難易度の設問で構成されており、設問数、文字数は試験時間に照らして適切である。

#### 第2問

基本～標準的な難易度の設問で構成されており、設問数と文字数は試験時間に照らして適切である。(3)以降は学びの質によって差が付きやすい良問である。特に、(3)は現状の受験者にはやや難易度が高かったと考えられるものの、今後の学びの質を向上させるためにこのような設問は必要である。

#### 第3問

- 〔1〕 基本～標準的な難易度の設問で構成されており、設問数と文字数は試験時間に照らして適切である。
- 〔2〕 基本～標準的な難易度の設問で構成されており、設問数は試験時間に照らして適切であるが、文字数はやや多い。(2)は標準的な難易度であるものの、「タチツテ」では、小数で表された関係を一次関数と仮定し数学的に処理する際に時間を要した受験者が一定数いたと思われる。また、「へ」について、現状の受験者には、やや難易度が高かったと考えられるものの、今後の学びの質を向上させるためにこのような設問は必要である。

#### 第4問

基本～標準的な難易度の設問で構成されているが、設問数と文字数は試験時間に照らしてやや多い。また、各設問は独立しており取り組みやすい一方で、各々の設問に関連がなく、設問ごとに資料を分析する必要がある、時間を要した受験者がいたと思われる。

### 「数学Ⅰ・数学A」について

#### 第1問 全問必答

- 〔1〕 「数学Ⅰ」の第1問〔1〕と同じ。
- 〔2〕 「数学Ⅰ」の第2問と一部同じ。

#### 第2問 全問必答

- 〔1〕 「数学Ⅰ」の第3問〔2〕と同じ。
- 〔2〕 「数学Ⅰ」の第4問と一部同じ。

#### 第3問 選択問題

(1)、(2)は基本～標準的な難易度の設問で構成されている。(3)、(4)は現状の受験者にはやや難易度が高かったと考えられるものの、今後の学びの質を向上させるためにこのような設問は必要である。設問数は試験時間に照らして適切である一方、文字数はやや多く、時間を要した受験者がいたと思われる。

#### 第4問 選択問題

(1)、(2)は基本～標準的な難易度の設問であり、(3)、(4)は設問中の注釈の意味を理解する力が問われるため、やや難易度が高く時間を要した受験者がいたと思われる。設問数と文字数は試験時間に照らして適切である。

#### 第5問 選択問題

基本～標準的な難易度の設問で構成されており、設問数と文字数は試験時間に照らして適切である。学びの質によって差が付きやすい良問である。「カキ」以降は問題の条件を的確に図に表し把握する力が求められるため、やや難易度が高かったと考えられるものの、今後の学びの質を向上させるためにこのような設問は必要である。

## 4 表現・形式

### 「数学Ⅰ」について

#### 第1問

- 〔1〕 (3)において会話文を導入し、(1)、(2)で解決過程を振り返り、発展的に考察する学習場面が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。(2)においてあえて「整数部分」という用語を使用していないため、設問の意図が理解できなかった受験者が一定数いたと考えられる。また、問うている資質・能力や難易度にかかわらず一律2点の配点となっており、一定の平均点を確保するためにはやむを得ないのかもしれないものの、この妥当性については検討していただきたい。
- 〔2〕 (1)において問題解決に向けて図を活用する学習過程を意識した問題が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、配点も適切である。

第2問 事象の特徴を捉え、様々な定理等と関連付けながらその本質を見いだしたり、解決過程を基に、発展的に考察したりする学習過程を意識した問題が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。問うている資質・能力や難易度の観点から「キク」の配点の妥当性については検討していただきたい。

#### 第3問

- 〔1〕 (4)において、(2)、(3)で得られた結果を基に拡張・一般化する学習過程を意識した問題が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく。問うている資質・能力や難易度の観点から「アイ」と「コサシ」の配点の妥当性については検討していただきたい。
- 〔2〕 短距離100m走のタイムを考察する学習場面が設定されている。特に、ストライドとピッチに着目し、日常の事象から数学的な問題を見いだす過程が強調されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、配点も適切である。取り上げる題材について、受験者の経験の差が解答に影響しないよう、今後も問題作成にあたっては表現等に十分配慮していただきたい。

第4問 与えられた図の特徴を捉え、その意味を考える学習過程を意識した問題が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、配点も適切である。図表の扱いについて、(1)から(4)は適切である一方、(5)は特徴となる点が見つけにくく、読み取りに時間を要した受験者もいたと思われる。図表の扱いについては検討していただきたい。

### 「数学Ⅰ・数学A」について

#### 第1問

- 〔1〕 「数学Ⅰ」の第1問と同じ。
- 〔2〕 「数学Ⅰ」の第2問と一部同じ。

#### 第2問

- 〔1〕 「数学Ⅰ」の第3問〔2〕と同じ。
- 〔2〕 「数学Ⅰ」の第4問と一部同じ。

第3問 (3)、(4)において、会話文を導入し、(1)、(2)の解決過程を振り返り、発展的に考察する学習場面が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与

える表現は特にない。問うている資質・能力や難易度の観点から「センタチツテ」と「ト」の配点の妥当性については検討していただきたい。

第4問 (3)では得られた結果を批判的に検討し、(4)ではそれらを基に新たな問題を見いだしたり、発展的に考察したりする学習過程を意識した問題が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、配点も適切である。

第5問 図形の性質を数学的に処理したり、得られた結果を基に、事象の特徴を捉えたりする学習過程を意識した問題が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。理解し難い表現や誤解を与える表現は特にない。問うている資質・能力や難易度にかかわらず一律2点の配点となっており、一定の平均点を確保するためにはやむを得ないのかもしれないものの、この妥当性については検討していただきたい。

## 5 まとめ（総括的な評価）

全体を通して、科目の全範囲から偏りなく出題されており、設問内容も指導要領の範囲内であり適切であった。また、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てる力、解決過程を基に、得られた結果を意味付ける力も問うており、バランスがとれている。

設問は基本～標準的な難易度で構成されている。現状の受験者にはやや難易度が高かった問題も散見されたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、今後の学びの質を向上させるためにもこのような設問は必要である。

会話文を導入した学習場面は、解決過程を基に統合的・発展的に考えたり、元の事象に戻してその意味を考えたりする資質・能力を問う適切な方法として機能している。問題解決の過程を重視し、問題作成方針に合致したものであり適切であるとともに、生徒が主体的・対話的な学びを通して学習過程を進める力を育成するための授業改善に向けた示唆を与えるものであり、高く評価できる。

また、このような資質・能力の育成は、数学Ⅱ・数学Bと一体感をもって進めることが肝要である。この観点から、数学①と数学②のバランスをホリスティックに評価することも必要である。なお、この育成すべき資質・能力の基底をなす数学学習に向かう力や態度については、本テストでの測定には限界があり、日頃の授業での指導が重要であることを付言しておきたい。

最後に、記述式の実施が見送られる等の混乱を乗り越え、円滑な高大接続の実現に向け多大な労力を費やしていただいた関係者各位に、心から敬意を表します。

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 公益社団法人 日本数学教育学会

#### 数 学 I

##### 1 前 文

「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」を踏まえ、「問題作成のねらい」、「範囲・内容」、「問題の分量・程度」、「問題作成における配慮事項」、及び、数学的な問題解決の過程を重視するという点について、高等学校数学科における授業への影響なども加味して、総合的な検証と評価を具体的に示していく。

「数学I」の選択者は「数学I・数学A」を含めた全体の約0.02% (5,750人/362,243人)であり、平均点は39.11点である。「数学I・数学A」の第1問、第2問の一部から、「数学I」の第1問、第2問、第3問、第4問に共通な設問として出題されている。数学Iの学習内容を的確に反映し、内容の本質的な理解を問う設問や、統合的・発展的に考える思考力を問う設問、日常生活や社会の事象を数理的に捉え数学的に処理し問題を解決する設問が適切に出題されている。問題作成関係者へ敬意を表したい。

今後も、試験対策として特定の分野に絞り込んだ学習に陥ることのないよう、偏りなく様々な内容を出題するとともに、数学の理解が深まるよう、典型的であっても正答率が向上しにくい分野等からも出題を続けていただきたい。更に、今後も継続して、高等学校等において「主体的・対話的で深い学び」をした成果が反映されるよう、数学の事象について統合的・発展的に考える設問や、日常生活や社会の事象を数理的に捉え数学的に処理し問題を解決する設問のバランスに配慮し、高校生の数学的に考える資質・能力の向上に資する出題を要望する。その際、日常の事象を扱う問題は、他の問題における思考の時間を確保するために、事象の数学化の過程における問題文や図表の量、数学以外の専門用語の精選、更に人物名等に配慮して出題していくことを要望する。

また、見開きページでのレイアウトによる余白と下書き用紙の確保、マーク箇所の煩雑さの回避、選択肢から選ぶための二重四角で表記されたマーク欄、導入や展開・振り返りでの誘導など、受験者が思考するための時間を十分に確保できるようにするための工夫を引き続き要望する。加えて、数学以外の知識により選択肢が選択されることのないよう、また、受験者が本質的でない箇所ですまづかないよう、設問の組み立てや流れ等に関して留意されることを期待する。

##### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 (配点20点/〔1〕「数学I・数学A」第1問〔1〕(1)(2)(3)と共通10点,〔2〕(1)2点(2)8点)

〔1〕(1)「数学I・数学A」第1問〔1〕(1)と共通2点

(2)「数学I・数学A」第1問〔1〕(2)と共通6点

(3)「数学I・数学A」第1問〔1〕(3)と共通2点

〔2〕(1)与えられた部分集合を表すベン図を選択させることで、集合に関する数学的な表現を理解し、論理的に考えることができるかを適正に評価する問題となっている。

(2)前半は、全体集合  $U$  とその部分集合  $A, C$  を要素を使って表現することで、 $A \cap B$  の要素を求める問題で、数学的な見方・考え方をもとに的確に処理する力を評価している。また、後半は、条件  $p$  や条件  $q$  をみたく  $U$  の要素  $x$  に調べ、条件  $p, q$  の関係を捉える問題で、必要条件や十分条件と真理集合の包含関係に関する理解を適正に評価できる工夫された問題となっている。

第2問 (配点 30 点／(1)(2)(3)(4)(5)(6)「数学 I・数学 A」の第1問〔2〕と共通 20 点, 追加 10 点)

- (1)「数学 I・数学 A」の第1問〔2〕(1)と共通問題 6 点に加え, 追加 3 点分として, 正方形  $\square BFGC$  の面積の解答を通して,  $\triangle ABC$  において余弦定理から辺  $BC$  の長さを求めさせている。図形に対して数学的な見方・考え方を働かせ思考する力を評価できるよう適切な工夫がなされている。
- (2)「数学 I・数学 A」の第1問〔2〕(2)と共通 3 点
- (3)「数学 I・数学 A」の第1問〔2〕(3)と共通 3 点
- (4) 参考図の六角形  $DEFGHI$  の面積は, どのような  $\triangle ABC$  であっても二辺とその間の角, つまり  $b, c, \angle A$  を用いて表せることを考えさせる, 3 点分の問題として追加されている。
- (5)「数学 I・数学 A」の第1問〔2〕(4)と共通 8 点
- (6) (5)と同じ四つの三角形のうちから, 内接円の半径が最も大きい三角形を, 角の大きさの条件に応じて答えさせる 4 点分の追加問題である。内接円の半径が最も大きい三角形を選択させるにあたり, 「最も大きい」はゴシック体で強調されているが, 「内接円」についても同様の強調をすることで, (5)との対比が一層明確になったと考える。

第3問 (配点 30 点／〔1〕(1)3 点(2)3 点(3)3 点(4)6 点

〔2〕(1)「数学 I・数学 A」の第2問〔1〕(1)(2)と共通 15 点)

- 〔1〕(1)二次関数の平方完成とグラフ  $G$  の頂点の座標を答えさせる, 基本的な設問となっている。
- (2)グラフ  $G$  を  $x$  軸方向に  $k$  だけ平行移動したグラフ  $H$  について, 数学的な見方・考え方を働かせて的確に処理できるかを評価できる, 工夫された問題となっている。
- (3) $k = -5$  のときグラフ  $H$  を  $x$  軸方向に  $+1, +3$  だけ平行移動したグラフの頂点の座標について考えさせている。放物線と  $x$  軸の区間  $2 \leq x \leq 6$  との交点の個数について, 放物線がグラフの軸に関して対称である性質などの知識・理解を問う設問として, 工夫されている。
- (4)二次方程式の異なる二つの実数解の差を表す式をもとに, 放物線が,  $x$  軸の区間  $2 \leq x \leq 6$  で異なる 2 点で交わるような  $k$  の範囲を発展的に考えさせる, 工夫された設問となっている。
- 〔2〕(1)「数学 I・数学 A」の第2問〔1〕(1)と共通 3 点
- (2)「数学 I・数学 A」の第2問〔1〕(2)と共通 12 点

第4問 (配点 20 点／(1)5 点, (2)(3)(4)(5)「数学 I・数学 A」の第2問〔2〕(1)(2)(3)(4)と共通 15 点)

- (1)ヒストグラムから統計量(最頻値, 中央値, 第1四分位数, 第3四分位数, 第4四分位数)の定義について知識・理解を適正に評価する設問となっている。
- (2)「数学 I・数学 A」の第2問〔2〕(1)と共通 4 点
- (3)「数学 I・数学 A」の第2問〔2〕(2)と共通 5 点
- (4)「数学 I・数学 A」の第2問〔2〕(3)と共通 3 点
- (5)「数学 I・数学 A」の第2問〔2〕(4)と共通 3 点

## 数学 I ・ 数学 A

### 1 前 文

「令和 3 年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」を踏まえ、「問題作成のねらい」、「範囲・内容」、「問題の分量・程度」、「問題作成における配慮事項」、及び、数学的な問題解決の過程を重視するという点について、高等学校数学科における授業への影響なども加味して、総合的な検証と評価を具体的に示していく。

「数学 I ・ 数学 A」は「数学 I」を含めた大半の受験者(356,493人/362,243人)が本科目を選択しており、平均点は57.68点である。内容の本質的な理解を問う設問や、統合的・発展的に考える思考力を問う設問、日常生活や社会の事象を数理的に捉え数学的に処理し問題を解決する設問が適切に出題されている。問題作成関係者へ敬意を表したい。

今後も、試験対策として特定の分野に絞り込んだ学習に陥ることのないよう、偏りなく様々な内容を出題するとともに、数学の理解が深まるよう、典型的であっても正答率が向上しにくい分野等からも出題を続けていただきたい。更に、今後も継続して、高等学校等において「主体的・対話的で深い学び」をした成果が反映されるよう、数学の事象について統合的・発展的に考える設問や、日常生活や社会の事象を数理的に捉え数学的に処理し問題を解決する設問のバランスに配慮し、高校生の数学的に考える資質・能力の向上に資する出題を要望する。その際、日常の事象を扱う問題は、他の問題における思考の時間を確保するために、事象の数学化の過程における問題文や図表の量、数学以外の専門用語の精選、更に問題で使用する人物名等に配慮して出題していくことを要望する。

また、見開きページでのレイアウトによる余白と下書き用紙の確保、マーク箇所の煩雑さの回避、選択肢から選ぶための二重四角で表記されたマーク欄、導入や展開・振り返りでの誘導など、受験者が思考するための時間を十分に確保できるようにするための工夫を引き続き要望する。加えて、数学以外の知識により選択肢が選択されることのないよう、また、受験者が本質的でない箇所ですまづかないよう、設問の組み立てと流れ等に関して留意されることを期待する。

### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

#### 第 1 問 (配点 30 点 / [1] 10 点 [2] 20 点)

「数学 I」と同様のレイアウトで、問題冊子の見開きページに 1 題ずつまとまった問題が配置されており、めくったページを再度戻り確認する必要がないよう工夫されている。今後も数学的思考力が適正に評価できるよう紙面の構成やマーク欄などの誘導の工夫、計算量の多い設問には「下書き用紙」のような計算欄を確保していただきたい。

[1] 係数に正の整数  $c$  を含む二次方程式の解が、 $c$  の値によって、有理数になったり無理数になったりする。二次方程式の解と  $c$  の値の間の関係や問題の背景にある構造を捉えるために、(1)では有理数解を、(2)では無理数解を求めさせている。そして(3)で、二次方程式の解の公式の根号の中の式と有理数解との関係について発展的に考えることができるかを評価している。設問の組み立てを工夫することにより思考力を適正に評価することができている。

[2] 問題文の初めに参考図が示され、思考の時間が確保されている。(1)では、 $\sin A$  と  $\cos A$  の相互関係から  $\sin A$ 、 $\sin(180^\circ - A)$  の値、更に  $\triangle ABC$ 、 $\triangle AID$  の面積を求めさせ、三角比に関する基本的な知識・理解を評価している。(2)は、三つの正方形の面積に関する式  $a^2 - b^2 - c^2$  は、余弦定理より  $-2bccosA$  となるため  $\angle A$  により符号が決まることを、数学的な見方・考え方を働かせて見いだすことができるかを評価している。(3)は、正弦定理から三角形の面積  $T_1$ 、 $T_2$ 、 $T_3$  はすべて  $abc/4R$  ( $R$  は外接円の半径) となることを導き出すことができるかを評価している。(4)

では、 $\angle A$ 、 $\angle B$ 、 $\angle C$ の大小関係に応じて、外接円の半径が最も小さい三角形を、数学的論拠を基に判断し選択する力を評価する問題となっている。ただし、正弦定理を用いずに具体的な図を一つ描いて、又は勘で解答して正答したとする受験者が少なからずいたことに留意されたい。

## 第2問 (配点 30点 / [1] 15点 [2] 15点)

本問の特性から問題文量や図や表が多くならざるを得ないが、図や表が設問ごとに見開きになっているため、裏のページを再度めくって確認する等の煩雑さが極力排除されている。その一方で、一つ一つの設問が独立しているため解答に時間を要し、他の問題で計算量などに配慮した工夫がなされている効果が薄まってしまうことが危惧される。

[1] 日常生活や社会の事象を数理的に捉え数学的に処理し問題を解決する設問であり、事象の数学化、焦点化、結論、検証を経る一連の過程が実現されている。問題文の冒頭で、陸上100m走におけるストライド  $x(\text{m})$  とピッチ  $z(\text{m}/\text{秒})$  の定義式を提示するとともに、小数の形で解答することについて再度解答上の注意を再掲しており、本質的でない箇所での解答につまずくことのないよう工夫がなされている。(1)は、誘導文や①の関係式からタイム  $y$ 、ストライド  $x$ 、ピッチ  $z$  の関係を選択肢から選択させることを通して問題の背景にある構造を意識させ、数学的論拠に基づいて判断するなどの思考力を適正に評価できる設問となっている。日常生活や社会事象を表現する場合は  $x$  だけでなく  $x(\text{m})$  と単位が必要であるので、他教科との表現の整合性の検討が必要である。(2)は、タイムが最もよくなるストライドとピッチの値を求めるという目標が冒頭で明記されており、見通しをもって思考できるように工夫されている。問題文及び表から  $2.00 \leq x \leq 2.40$  かつ  $4.00 \leq z \leq 4.80$  の中で  $y = xz$  かつ  $z = -2x + 44/5$  における  $y$  の最大値とそのときの  $x$  (及び  $z$ ) を解答させることで数学的思考力を評価している。

総じて、日常生活の事象の解決を通して数学のよさを感じ得るように工夫されており、高等学校数学科の授業にとっても示唆的な問題になっている。

[2] 「数学I」では冒頭でヒストグラムにおける最頻値、中央値、第1四分位数、第3四分位数、最大値などについてヒストグラムで考えさせている。「数学I・数学A」の(1)は、就職者数割合の箱ひげ図で「正しくないもの」を二つ選択させる問題で、数学的論拠に基づいて判断する力を適正に評価している。(2)は箱ひげ図に該当するヒストグラムの対応を選択させる問題で、箱ひげ図とヒストグラムの二つの見方の関連を体系的に理解できているかを評価している。(3)は、複数の散布図から相関係数の絶対値の大小関係を正しくよみとることができるかを評価している。(4)は、2種類のデータの一方の散布図が与えられたときに、残りの1種類のデータの散布図を数学的な見方・考え方を働かせて的確に選択できるかを評価している。

## 第3問 (配点 20点 / (1)10点(2)3点(3)4点(4)3点)

問題の冒頭に、くじ引きの結果からどのからくじを引いた可能性が高いかを条件付き確率を用いて考えるという目標が示されており、受験者は解決の見通しや構想を立てて、考察を進めることができる。この点は今後も継続していただきたい。(1)は、箱A及び箱Bのそれぞれについて3回中ちょうど1回当たる確率を求めさせることで、反復試行の確率、及び条件付き確率に関する基本的な知識・理解を評価している。(2)は、(1)で得られた二つの条件付き確率の比と二つの反復試行の確率の比が等しいことに気づかせ、受験者が数学のよさを感じ得るように工夫されている。(3)は、箱が三つの場合でも、箱が二つの場合と同様の性質が成り立つという仮説のもとで条件付き確率を求めさせることで、数学的思考力を適正に評価できている。(4)は、条件付き確率の比が反復試行の確率の比と一致することから二つずつの条件付き確率の大小を比較することができることに気付かせることで、この問題の本質的な構造を捉える力を評価している。なお、日常生活の事象を扱う上では、問題で使用する人物名等への配慮が大変重要である。今後も適切な数学化のもとでの出題を通して数学的思考力を適

正に評価することを要望する。

#### 第4問 (配点 20 点)

(1)では、 $x+y=5$  と  $5x-3y=8$  を立式し  $x$ ,  $y$  の値を求めることを通して、具体的な事象を数学的に表現し的確に処理する力を適正に評価している。(2)は、一次不定方程式  $5x-3y=8$  の一般解及び  $0 \leq y < 5$  における特殊解を解答させて、的確に処理する力を評価するとともに、石の動きの構造を把握させる工夫がなされている。(3)の冒頭には、(2)で得られた移動回数よりも少ない回数を探すことが明記されており、解決の見通しや構想を立てて、解決を進めることができるように工夫がされている。更に石を 15 個先の点に移動させると元の位置に戻ること気づかせることで、(2)で得られた回数よりも少ない回数が解答できるようになっている。また、問題の数学的な構造の発見を通して、数学のよさが感得できる問題となっている。(4)は、最後に各点における最小回数の考察を行うことで、選択肢から最も大きい最小回数の点を選択させている。この設問で、偶数が  $p$  回出たときと  $p+3$  回出たときの位置が一致すること、及び、奇数が  $q$  回出たときと  $q+5$  回出たときの位置が一致することにより、 $p=2$  かつ  $q=4$  が最小回数の最大(=6 回)であると判断した受験者は少なかったようである。今後は、結論を問うだけではなく、このような見方・考え方ができているかどうかを評価するための工夫が必要である。なお、本問は始めの一つの誤りが以降の解答で致命的な誤りに繋がらないよう、設問項目を分ける配慮がなされている。

#### 第5問 (配点 20 点)

参考図がないことで問題文を読解し、順次、図を自ら描く活動を通して考察することが重視されている。3 辺の長さが 3, 4, 5 である  $\triangle ABC$  が  $\angle B=90^\circ$  の直角三角形であることに早くから気付く必要がある。 $\triangle AEC$  に注目して線分  $AE$  の長さを解答するよう誘導がなされているが、 $\triangle ADC \sim \triangle BDE$  から  $AE$  の長さが求められるなど、他の方法でも解答を進めることができるため、よく工夫された設問となっている。方べきの定理の逆と三角形の相似条件との関連、 $\triangle ABC$  の内接円の半径と  $\triangle ABC$  の面積の関係、円に内接する四角形など、体系的に理解しているかを評価することができている。ただし、根拠が不明確なまま解答した受験者も少なくなかったようであり、問題の本質や数学的構造を的確にとらえることができているかどうかを評価するための工夫が必要である。

# 外 国 語

## 英 語（リーディング）

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

- ・大学入学共通テストの概要

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており、平成2年より実施された「大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）」に代わって、令和3年より実施された。

今年度の受験者数は、476,174人で、前年度のセンター試験より、42,227人減少している。

今年度の本試験の平均点は58.80点で、昨年度の平均点58.15点（100点換算）とほぼ変わっていない。

- ・科目の特徴

センター試験の「英語」と異なり、高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）にあるように、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としている。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は出題されていない。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況となっている。問題文についても、英語で表記されている。配点も200点から100点へと変更された。

- ・評価の視点

ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、CEFR レベルにふさわしいテキストと設問が設定されており、A1 から B1 レベルに相当する問題となっている。

センター試験の問題に比べて、単語数が1000語以上増加している一方、英文自体の難易度は、昨年度と同等と思われる。受験者は、時には複数の表等から、情報を読み取る力が要求されている。また、学習指導要領に、「情報や考えなどを理解」という項目があるが、fact と opinion を識別する問いも複数ある。グラフや表は多すぎず、適切な量であると思われる。

文書の形式や場面、分野は様々で、メモを作る、スライドを作成する等、授業で行った活動も生きてくるようになっている。

#### 2 内容・範囲

第1問A 大学寮のルームメイトとのスマートフォンでのやりとりを扱った問題である。日常的なコミュニケーションを題材にしており、コンセプトとしては良い。問2で会話の流れを理解できているかを問うている点も良い。ただ、メールの各メッセージが少し長く、それを短くしてもう一往復程度メール内容を増やしても良いのではないだろうか。

第1問B 外国の歌手のファンクラブに入会するために、ウェブサイトを読む問題である。これも日常的に起こりうる状況を扱っていて、良問である。必要な情報を読み取る力が問われている。

第2問A バンドコンテストでの3人のジャッジのそれぞれのコメントを読んで答える問題。情報を正確に判断し、fact と opinion を見極める力が問われる。状況設定は工夫されている。今後はfact と opinion を意識させることも念頭に置いた授業展開が今以上に求められる。

第2問B 学校の方針に異議を唱える生徒会長とそれに対応する校長とのそれぞれのメールを読んで双方の意見のポイ

ントと事実を把握する問題。相手の意見の弱点を見つけ、論理的に議論する力が問われる。問5の解答にばらつきがあることを見ても分かるように、自分の考えをただ述べる事はできるが、相手の矛盾点に気づき、異論を唱えることが苦手な生徒が多いのではないかと。Debateの要素をいかに効果的に授業に取り入れるかが課題である。

第3問A イギリス旅行での空港からホテルへの移動手段について、ネット上での質問とその回答を図表も参考にしながら内容を把握する問題。図表自体はシンプルだが、英文をしっかりと理解しないと間違えてしまう。日程、時間、状況など、様々なポイントに気を配りながら正確な情報を読み取る力が必要。

第3問B 留学生が、地域の国際センター存続のために募金活動のボランティアを募る題材である。起こった出来事の順番と内容把握の問題である。ただ英文を読むのではなく、頭の中で時系列を整理しながら英文を読み進める力が必要。

第4問 姉妹校の生徒が来日した時の計画に関して両校の生徒のメールのやりとり。添付された図表も参考にしながら情報を確認し、そこから一番適切なプログラムを導き出す問題。水族館の資料は時間帯を絞る等、簡素化したもので十分であったと思われる。さらに、問1では、この選択肢だと答えを選びやすいため、それぞれ別に4択にしてはどうだろうか。日々の授業において、国際交流を疑似体験できるような活動を行うことも必要になるとと思われる。

第5問 Aston という牛とその飼い主の話を理解し、それをプレゼンテーションするためのスライドを作る問題。この話がノンフィクションであることと、プレゼンテーションの設定であることが斬新で良い。問4は選択肢を組み合わせにして提示しても良いだろう。学校の授業でのプレゼンテーション導入のひとつのきっかけになることが期待される。

第6問A アイスホッケーの安全性についての英文を読み、ポスターを作ってクラス内で発表する設定。文の内容を把握するのみならず、相手に分かりやすいポスターを作成しなければならないので、内容を論理的に理解し表現する力が問われる。サッカーやバスケットと違って「アイスホッケー」という、生徒には普段なじみのないスポーツを題材にしたのは公平性を保つという点でも良かった。

第6問B 人工甘味料に関する英文を読み、内容把握と、筆者の考えを読み取る問題。普段から身の回りの様々なことに興味を持ち、あるいは家庭科等の授業での経験を生かした生徒にはなじみのあるテーマであったと思われるが、そうではない生徒にとっては少し難しかったかもしれない。また、sucralose や aspartame などの見慣れないスペルによって解答が難しかった可能性もある。普段の生活の中のあらゆる情報、そして他教科での学習との関連を印象付けた問題である。

### 3 分量・程度

第1問A 約150語で2つの設問。必要な情報を読み取る力を問うのに適切な分量。実生活のSNSでのやりとりに比べると、テキストメッセージとしては長いですが、問題として適当。日常生活に関連した基本的な問題であり難易度も適切。

第1問B 約270語で3つの設問。資料とその説明文から必要な情報を探し出す力を問うのに適切な分量。ファンクラブのウェブサイトと関連した資料の情報量として適切。数値の情報はあるが計算の必要はなく易しい。

第2問A 約250語で5つの設問。資料から必要な情報を素早く読み取る力を問うのに適切な分量。情報の種類が複数でやや多いが、各文章が短く簡潔であり適切。設問により難易度は若干異なるが、全体では標準的な難易度。

第2問B 約300語で5つの設問。資料から必要な情報を読み取る力を問うのに適切な分量。情報量はやや多いが、資料の設定は、シンプルなネットの掲示板2種類であるため適切。問5は内容の中での今後の方向性を問う問題で、読み取った内容を基に推測することが困難だった生徒が多くいると思われる。おおむね標準的な難易度。

第3問A 約270語で2つの設問。比較的語数は多いが、英文、図ともに平坦で理解しやすい。問2は、案内図の情報からすぐに解答が導き出せそうに見える。しかし実際は本文中の詳細な情報を基に時間の計算をする必要があり、総合的な情報を理解する必要があるため、難易度の高い問題となった。

第3問B 約320語で3つの設問。記事を読み概要を把握する力を問うのに適切な分量。イラスト等の資料はないが、校内新聞の設定でイメージしやすく適切。問1は出来事を時系列に並べる問題で、選択肢が本文のどこをまとめたも

のかの判断が難しかった。全体としては標準的な難易度。

第4問 約570語で5つの設問。メールと図表の情報量が多く設問の英文も注意して読む必要があるため、第4問で時間がかかる受験者が多くいた可能性あり。メール文は長文だが、主張内容は明確。目的を達成するための資料が続く、設問に対しての本文資料として適切な量。複数の情報を読み取る必要があり、情報を整理し解答する問題では正答率は標準的。問5の説明文の情報から判断し、新たな候補案を考える力を問う問題で難易度は高かった。

第5問 最も多い語数約690語で5つの設問。いかに情報を適切に読み取るかを問うのに分量は必要且つ適切。既習の一般的な語彙が使用されており難易度は標準的。文章の構造と言い回しは、ニュースレポートとして時系列且つ叙述的であり難解ではない。各設問では、時系列を読み取る問3で難易度は高かった。正確に全体の流れをつかみ解答する問題で受験者の理解度合いが分かれ、適切に力を測ることができる。

第6問A 約650語で4つの設問。7つの段落のどこに何が書かれているかを把握し、ポスターに当てはめる問題。どの情報が適切かを答える問題では、要約の力を測るのにこの分量は必要。なじみのない単語も出てくるが、前後から推測することができ難易度はそれほど高くない。問3は、6段落の内容を要約する問題で、選択肢に本文では使われてない言葉で表されるため難易度がやや高かった。しかし、要約力を適切に測る問題として適当。

第6問B 約550語で4つの設問。なじみのない名称が複数出てくるが、戸惑わずに正確に設問に答える力が求められる。長すぎることもなく、最後の設問として適切な分量。見慣れない甘味料の名称が特に3段落目と4段落目に並ぶ。特徴の情報を正確に得て解答することが求められる。設問では、正答ではない選択肢にも理解を測る工夫があり、妥当且つ適切。

#### 4 表現・形式

第1問A スマートフォンでのSNS利用という受験者の日常生活に近い場面設定であり、英文も平坦で理解しやすい問題。基本的な読解力を問う問題であり、且つ、相手にどう返答するかというコミュニケーションにつながる力を問う問題も含まれている。

第1問B ミュージシャンのファンクラブの案内ウェブサイトを見て入会の手続きや会員特典に関する情報を読み取るという受験者にとって身近な場面設定。表と説明文という2種類の材料から情報を読み取らせる問題。数値や宣伝表現等も含まれるが計算の必要はなく、表現も平坦で、情報が取りやすい設定。

第2問A 審査員のコメントと総合評価を読み、事実と意見を区別させたり、最終的な順位を考えさせる問題。場面設定として学校生活に身近なものになっている。イギリス英語の使用がある。文章は平坦である。

第2問B 受験者にとって身近である生徒会関連の話題の設定。2つの意見をネットの掲示板で読み、概要を把握する力を問う問題。イギリス英語の使用がある。ネットでのメール文のやりとりは受験者にとって慣れ親しみのある形式。

第3問A 旅行関連サイトのQ&A欄を読んで、内容の概要、必要な情報の詳細を捉える問題。本文を照らし合わせることなく、案内図のみで判断し解答した受験者がある程度いたと思われる。実際に、特に詳細の説明が必要となる場合、適切な配慮をとることも考えられる。例えば、図表の中に※等を加え、詳細は別に記述がある旨示す等が考えられる。

第3問B 日本への留学生が、異文化交流センター改築への寄付依頼を校内新聞に掲載するという内容の読み取りを通じて、概要を問う問題。今後のとるべき対応を問う問題。課題を共有して解決するという場面設定は、留学生関連の話題において異文化交流にとどまらない人と人とのつながりを示す適切な場面設定。また、イギリス英語特有の単語のスペリングが含まれている。

第4問 スケジュール案の作成に関してのメールを2つ使用、一方には図表を添えている。資料を作成する必要もあり、読み取った情報を整理して、それに基づいて考える問題。メール本文とグラフ、資料、メモ等が多岐にわたり使用され様々な形態の資料を活用する力を測るのに適している。

第5問 学校では情報を得た後に、スライドを作りプレゼンテーションをする機会はある。読んだ内容をスライドにまとめるという設定は適切。ただ、スライドに実際のプレゼンテーションでは入る可能性の低いもの(2枚目のスライ

ド)があり、やや無理がある。より現実に即した想定が必要。設問形式、配点ともに適切。設問形式は叙述的展開の把握を問うもので、時系列での読解力を測ることができる。特に、心情を問う問題等は出題されていない。設定と内容に現実味があり、言語材料について難解なものはない。配置は適切である。

第6問A スポーツと医学的な内容、スポーツの試合の運営や規則を読み取り、ポスターに要点をまとめる設定。一部教科横断型学習の過程を意識した場面設定で評価できる。内容の要約をする力を測る設問形式。直接設問の答えになる言葉が本文にない場合でも、段落の概要を読み取ることができれば解答可能。よって形式、配点ともに適切。文章表現も難解な箇所は見当たらない。若干なじみがない用語があるが、前後の内容から推測して全体を理解することが可能。言語材料も適切であると評価する。ポスター作成に必要な基本的なポイントが提示されており、今後の学校での学習指導の参考になる。

第6問B 家庭科等との教科横断型の指導のきっかけにもなる内容で適切な場面設定であると評価する。専門的な見慣れない語彙にもためらわずに読み進め情報を得るという力を試す問題として適当。また、問題の分量、設問形式と配点ともに適切。設問の中の選択肢は正確な理解を測る工夫があり、正答率からも適切に能力を測る問題だった。科学的なテーマを取り扱っている内容である。多少未知の固有名称が出てくるが、難解な文章表現はない上、特徴を読み取り解答する設問であり適切。図は一つで、示し方、選択肢の配置等含め、様々な特徴を持つ甘味料の種類を整理し理解する助けになるもので、適切。

## 5 まとめ

共通テストの全科目の中で、「リーディング」は最も多くの受験者が受験する科目であり、また、センター試験から共通テストに替わるに当たり、最も大きく変更された科目であると言えるだろう。あくまで大学教育を受けるのに必要とされる基礎力と高等学校段階における英語学習の達成度を判定することを狙いとしており、海外留学 (TOEFL, IELTS) あるいは国際ビジネス (TOEIC) を念頭に置いた国際標準の試験とは目的が異なるが、CEFRを参考に、CEFRのA1からB1レベルに相当する問題ということが、作成方針に掲げられている。共通テストの問題は試験日の翌日に新聞等で全て公開され、教育関係者のみならず一般国民の目に広く触れることも特徴的である。したがって、本試験は競争的試験として他に類を見ない特殊性・公開性の下に行われているものと言えよう。本試験の以上のような特性から、試験の内容・形式に関しては、教育の現場に及ぼす影響を十分に考慮し慎重な配慮が必要である。

これまでのセンター試験との違いは、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題がなくなり、全てが英語の設問による現実で目にするだろう情報に近い形での文章と問題設定である。様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問う問題となっており、総語数は、センター試験と比較し25%以上増えている。授業内での活動を意識した設定で、プレゼンテーション、スライド作成、ポスター発表、問題解決など、ただ単に読んで内容を理解するだけに留まらず、発展的に情報を発信したり、誰かに情報を伝えたり、表現するといった様々な設定の下に設問が作られている。答えは本文に直接的には書かれておらず、内容全体を理解して、思考しないと解答できない問題、事実か意見かを整理する問題、また読んだ上でその後どうするか、という将来の行動について考えさせる問題もあった。より現実に近い設定を与えることで、読む技能を試すだけではなく、発展的に思考して判断する力を問うものであった点は大きな変化である。日々の授業において、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることを意識して言語活動を行う必要がある。また、ポスターの作り方、プレゼンテーションの仕方、スライドの構成など、実際に社会に出た時にも役に立つ内容を授業でも行うことで、授業での活動の幅が広がることが期待される。なお、時代に合った内容を取り入れることで、社会の問題や変化に対応していく必要性を感じる設問があり、大いに評価に値する。多様な人々の存在する現在の社会において、他を尊重し協働的に活動をすることが明示される内容の出題により、今後授業で取り扱う内容に大きく影響を与えると考えられる。

全体において、新学習指導要領を見据えた新しい方向性を示すテストとなった。引き続き、積極的に英語を使う態度を養い、情報や考えを適切に理解した上で伝える能力を高めるための英語教育が行うことができるよう、現実に近い言語使用の状況設定と変化の激しい現在の世界と社会について考えるきっかけとなる内容での問題作成を要望する。

出題内容				設問数		配点			難易度
大問	中間	解答番号	出題内容			1問当たりの配点	配点		
第1問	A	1-2	意図の読み取り	2	5	2	4	10	☆
	B	3-5	情報の読み取り	3		2	6		☆
第2問	A	6-10	要点の把握	5	10	2	10	20	☆☆
	B	11-15	情報の整理	5		2	10		☆☆
第3問	A	16-17	図表と説明文の理解	2	5	3	6	15	☆☆☆
	B	18-21	時系列での内容理解	1		3	3		☆☆
		22-23	課題の共有と理解	2		3	6		☆☆
第4問		24-25	図表と説明文の理解	2	6	2	4	16	☆☆
		26-29	内容理解と情報の整理	4		3	12		☆☆
第5問		30-31	物語のタイトル	2	5	3	6	15	☆☆
		32-35	物語の展開把握	1		3*	3		☆☆
		36-37	物語の要点把握	1		3*	3		☆☆☆
		38	物語の全体理解	1		3	3		☆☆
第6問	A	39-42	内容の論理的考察	4	4	3	12	24	☆☆
	B	43-44	情報の要約	2	2	3	6		☆☆☆
		45-46	正確な内容理解	1	1	3*	3		☆☆☆
		47	著者の意図の読み取り	1	1	3	3		☆☆
合計				39			100		
平均点							58.80		

\*は、全部正解の場合のみ点を与える。

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国英語教育研究団体連合会

#### 1 前 文

本稿では、2021年度（令和3年度）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）第1日程「英語（リーディング）」問題の検討を行う。

昨年度までの大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「英語（筆記）」問題は共通テスト「英語（リーディング）」問題へ移行し、問題の形式上大きな変更があった。移行に伴い、今回の共通テストでは、従来の発音問題や語順整序等の問題がなくなり英語リーディングの力を測る試験に変わった。コミュニケーション重視の観点から英文の内容や場面設定に改善が進められており、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえた設定となっている。

昨年度と比較して出題された小問の数は減少したものの英語の総語数は1,000語以上を超える増加となった。このため、受験者にとってはこれまで以上に速読力が求められ、試行調査（プレテスト）にはなかった新傾向の問題も登場し、最後まで解き終えることができなかつた学生が増加したことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく、素材となる英文の種類や目的に応じて様々な読み方をするのが要求され、設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスや効果測定の観点、特に思考力を測定する観点からするとこれ以上語数を増やすことは有効ではないと考える。情報量が増え、問題も複雑になり、短い時間の中で注意力や解答方法への慣れを測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題に改善することが求められるのではないかと考える。しかし、一方で中間集計の結果、平均点が100点満点中ほぼ60点となり、ある意味、理想的な結果となっている。今後大問と小問ごとの正答率や弁別率、得点分布など更に詳しい分析結果が待たれるところである。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 情報とその意図の読み取りに関する設問である。問題数は5問で、10点の配点となった。日常生活に関連した身近なものから自分が必要とする情報を読み取り、その情報を基に解答を推測する力が求められる問題である。

A スマートフォンのメッセージのやり取りを通して、画面上のメッセージの内容について問う問題とメッセージに続く応答を推測させる問題である。後者についてはリスニングの問題で短い対話に続く適切な応答を選択させる問題に類似しており、短い英文のやり取りから必要な情報を読み取り、適切な応答メッセージを返信する設定であり、思考力を測定する問題として優れた問題であると判断する。

B ウェブサイトにある案内文から必要な情報を読み取り解答する問題で、昨年まで実施されていたセンター試験の第4問Bに類似している。過去の問題は、設問が先に設定されていたので、実際の場面からすれば、やや違和感があると捉えられたこともあったが、共通テストでは設問が問題文の後に設定された形式に変化してそのようなこともなくなった。過去に出題されたこの形式の問題には、一見して文字が小さく行間も狭く複雑で分かりにくいものがあったが、その後改善が進み、文字の大きさや行間の幅などが改められ、一目でどこにどのような情報があるのかがすぐに分かるようになり、取り組みやすい問題となった。必要以上に情報を満載して、単に注意力を試すような問題にすることは避けるべきである。

第2問 試行調査問題のねらいとして「友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語

で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理することができる。」点が挙げられているが、情報を「事実」と「意見」に整理する問題は新傾向の問題である。今回の問題の選択肢の構成を見ると、例えば、Aの問4は「意見」である③を選ばせる問題であるが、①と②には「事実」が述べられており、④には意見でも事実でもない本文と異なる内容が述べられている。つまり、受験者は事実と意見、そして、さらにその他の情報の3つに整理する必要があり、従来の問題と比較して複雑で時間がかかる問題である点を指摘しておきたい。

A 複数の情報を読み取り総合的に判断して正答を導き出す問題である。この問いではデータとコメントと評価のそれぞれ関連性がある3つの情報を正確に読み取り、ねらいの違う5つの問題に答えることが要求されており、受験者にとっては細心の注意を必要とする問題である。しかし、一方で問1は一見すれば分かるような単純な問題であり、小問ごとの難易度の差が大きいという印象を受けた。また、問3における”one fact”は何を意味しているのか、受験者にとって判断が難しかったことが予想される。問題の選択肢からすると3人の審査員に共通するコメントを選択することが求められていることがわかるが、はたして受験者はそれを理解できたのであろうか。②は1人の審査員の「意見」であり不正解、①は3人の審査員の共通する「意見」が「事実」となり正解なのであろうか。試行調査問題を解いたことがある受験者にとってはある程度の予測がついたであろうが、全くの初見では混乱を招く問題である。

B オンラインフォーラムのディスカッションを読み、その内容や「事実」に関する問いに答える問題である。この問いにある「事実」は問題Aと比較して何を指しているのかは明確であり解く上で問題となるようなことはない。問5はいわゆる思考力を測る問題であり、共通テストの特徴のひとつと言える。

第3問 平易な英語で書かれたウェブサイトのQ&Aや学校のニュースレターのメッセージを読み、書かれている内容の概要に関する問いに答える問題である。

A 平易な英語であることに間違いはないが、計算を伴う問題もあり受験者にとっては注意力を要する問題である。ホテルまでのアクセス方法が図表に分かりやすくまとめられており、出題上の工夫がうかがえるが、ウェブサイトの質問文の冒頭にQuestionと表記されていればもっと分かりやすくなったのではないかと思われる。また、本文は短い英文なので問いの数も少なく設定されたことはわかるが、わずか2問しかなかったことには残念な印象を受ける。

B 試行調査問題の小問1の概要に「雑誌の記事を読んで、概要（登場人物の気持ちの変化）を把握する。」とあり、「気持ちの変化」に関する問題の選択肢が6つもあったが、今回の試験では本文のメッセージに出てくる事実を時系列に並べる問いになり、取り組みやすい問題となった。問3は思考力を測る問題であり、今後このような問いが増えることが予想される。

第4問 試行調査問題のねらいには「生徒の読書習慣について書かれた記事の読み取りを通じて、記事やグラフから、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う。」とあり、記事の数は2つで1つの記事にグラフが1つ添付されていた。今回の試験では2つのemailと時刻表とグラフの合計4つの情報が複雑に絡み合う問題となり、受験者にとっては注意力を要する問題となった。実用的な英文を読み、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う問題であることには間違いはないが、情報源が多すぎる印象を受けた。しかし、問いは短く明解であり選択肢も分かりやすいので情報を正確にたどっていけば正解に到達できる問題である。また、問2は並べ替えるものが最初にA～Dに明示されていて、並べ替えの組合せの選択肢が4つに限定されているので問題を解く時間が短縮できる。

D: The schoolは全ての選択肢の最初にあるので、実質的にはABCの並べ替えになっている点を指摘しておきたい。

第5問 試行調査問題のねらいには「ポスタープレゼンテーションのための準備をする場面で、アメリカにおけるジャーナリズムに変革を起こした人物に関する物語の読み取りを通じて、物語の概要を把

握する力を問う。」とあり、小問が4つあった。今回の試験ではプレゼンテーションコンテストに取り上げるテーマとして牛とその飼い主を中心にした物語の概要を把握するための小問が5つ設定された。試行問題の問2と問4の問題文には、「Choose the best statement(s) to complete the poster. (You may choose more than one option.)」とあり、選択肢が6つもあったが、今回の試験では改善され、選択肢を幾つ選択してもよいという問題がなくなった。受験者にとっては安心して問題を解くことができるようになり、時間を節約することもできたのではないかと思われる。

第6問 試行調査問題の主に問いたい資質・能力の思考力・判断力・表現力に「身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などを読んで概要や要点を把握したり、情報を整理したりすることができる。また、文章の論理展開を把握したり、要約することができる。」とあり、問題Aではアイスホッケーの安全性に関する記事を読み、その内容をポスターにまとめる問題が出題され、問題Bでは様々な種類の甘味料に関する英文を読み、その内容を問う問題が出題された。

A 本文中に語彙レベルが高い語、例えば、「concussion」や「spotter」などが見受けられるが、それぞれの語に対して本文中に前者は「A concussion is an injury to the brain that affects the way it functions;」と定義があり、後者は「two concussion spotters, who had no medical training, monitored the game in the arena.」と説明があり、特に問題となる点はなかった。また、ポスターも一見して分かりやすく、空所に入る適切なものを一つずつ選択する形式も選択肢が短く解きやすい問題である。本文の次の図表の冒頭に、他の問題と同じく「ポスター」であることを明記すれば他の問題との統一感がでて更によいのではないかという印象を受けた。一方、アイスホッケーの安全性というテーマであるが、アイスホッケーというスポーツ自体が「身近な話題やなじみのある社会的な話題」であるのか、やや疑問に思うところがある。このスポーツの激しさや危険性は実際の映像を見れば一目瞭然であるが、果たしてどれくらいの受験者がこのスポーツを観戦した経験があるのであろうか。観戦したことがない受験者にとって、本文からこのスポーツのイメージや「quiet room」などを的確に捉えることは難しかったのではないかと思われる。

B 本文中に高いレベルの語彙が散見されるが、問題Aと同様にその定義が本文中に書かれていたり、分類上の具体例が複数示されていることから、その語の具体的な意味が分からなくても受験者は英文を読み取ることができたと予想される。しかし、本文中の「a whole food」という表現についてはもう少し説明が必要であったのではないかと思われる。また、辞書の見出し語には一語で「wholefood」とあり、その定義がある辞書には「food that is considered healthy because it only contains natural things rather than anything artificial」と記載されている。バナナが例として挙げられているが、受験者にとって理解するのが難しかったのではないかと思われる。問2は表にある(A)~(D)の並び方が縦方向であるのに対して選択肢は横方向で2行に並んでおり、問題を解く上で分かりにくいという印象を受けた。選択肢も表にある並び方に合わせて表記していただくことをお願いしたい。問3の問題文であるが、「Choose two options.」はカッコの外に出し、「Choose two options. (The order does not matter.)」として他の問題との統一感を持たせるべきだと考える。また、問4の正解は④であるが、選択肢にある「make sense」の意味が受験者にとってはやや難しかったことが予想される点を指摘しておきたい。

### 3 まとめ

本稿では2021年度（令和3年度）第1回共通テスト「英語（リーディング）」問題について検討してきた。前述にもあるとおり、センター試験と比較すると大問構成は6問で変化はなかったが、英語の総語数が増加し、複数の英文や図表で構成される問題が増え、これまで以上に複雑な問題を解く英語リーディングの問題に大きく変化した。リーディングの問題であるから英文法や作文、発音に関する問題がなくなったことに問題点はないが、共通テストでは英語の4技能のうち主に2つの技能（リーデ

ィング、リスニング)を計測することにとどまることになる。新型コロナウイルスの影響を受けて個別試験を実施しない大学では、主に共通テストを利用して合否を判定することになったが、従来のセンター試験であれば、4技能のうち少なくとも3つの技能を測ることができたのではないかと思われる。緊急事態宣言が出されている中、やむを得ない選択ではあるが、結果として偏った技能測定を余儀なくされたことになるのではなかろうか。

以下は大胆な提案であるが、将来は英語リーディング試験をリーディングとライティングの2つの技能を測定する試験に、英語リスニング試験をリスニングとスピーキングを測定する試験に変更していくことを検討していただきたい。後者のスピーキングテストについては、学校現場でタブレットを利用した試験を毎年実施しており、これまでに特に大きな問題はなかった。AI技術を利用すれば短期間で採点することも可能であろう。AIを活用した音声採点システムの開発は進んでおり、複数のシステムを組み合わせることで偏りを排した採点が可能となるのではないだろうか。他の3つの技能の測定については、従来の方法に従い問題の構成を変えるだけで可能になる。外部試験の利用は評価基準が複数になり、異なる試験を同一の入学試験に利用することは公平性を担保する上で大きな問題となるが、共通テストで評価を一本化すれば全ての問題が解決されることは間違いないと判断する。

# 英 語（リスニング）

## 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

### 1 前 文

令和 3 年度大学入学共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リスニング）」の受験者は、第一日程が 474,484 人（昨年度のセンター試験は 512,007 人）で、受験者全体の約 98.3%（昨年度は 97.2%）に当たる。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質や難易度、使用される言語材料等が、センター試験から引き続き、受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者等、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。満点はリーディングと同じ 100 点となり、第一日程の平均点は 56.16 点であった。

本テスト「英語（リスニング）」について検討・評価した項目は、内容・範囲、分量・程度、表現・形式である。また評価の視点として、以下の 5 つの事項を主なよりどころとした。

- (1) 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 平成 22 年 5 月（以下「学習指導要領」という。）
- (2) 令和 3 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
- (3) 「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「英語表現Ⅰ」の教科書
- (4) 令和 2 年度大学入試センター試験「英語（リスニング）」（本試験）
- (5) 令和 2 年度大学入試センター試験 試験問題評価委員会報告書（本試験）

### 2 内容・範囲

本テストは、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「英語表現Ⅰ」の教科書等でよく扱われる内容・範囲が網羅されており、高等学校段階における「聞く力」の領域を中心とした学習の成果を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から社会的な話題に至るまで、語彙や文法の正しい知識を基に、情報活用能力を働かせながら、目的に応じて概要や要点、話者の意図などを捉える必要のある、思考力・判断力・表現力等を問う内容であった。

第 1 問 A は、短い英文を聞き、その内容として最も適切なものを選択肢から選ぶ問題である。英文は比較的平易であったが、発話内容全体及び選択肢の正しい理解と話者の意図を適切にくみ取る思考が必要となる。どの英文も日常生活において発せられる表現で、受験者にとってなじみのあるものである。第 1 問 B は、英文を聞き、その内容と最もよく合っている絵を選ぶ問題である。比較的平易な英文であったが、語彙や文法の正しい知識を活用して、英文の表す状況を頭の中で正しく描けることが求められる。

第 2 問は男女 2 人の短い対話を聞いて、問いの答えとして最も適切な絵を選ぶ問題である。場面を想定しながら対話を聞き、状況を正しく理解した上で物や場所を正しく判断する力が問われている。日常生活の場面を内容とした対話で、受験者になじみのあるものである。

第 3 問は、男女 2 人の対話を聞いて、書かれている質問の答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。場面を思い描きながら対話を聞くと同時に、書かれている質問と選択肢に目を通し正しい解答を選択する必要がある。日常生活の場面を内容とした対話で、受験者になじみのあるものである。

第 4 問 A 問 18～21 は、やや長めのモノローグを聞き、円グラフを完成させる問題である。円グラフは何を表しているのか、選択肢には何があるのかを理解した上で、音声から数値を扱った重要な情報を聞き取り整理する能力が求められる。学校における授業の場面のモノローグであり、受験者になじみのあるものである。問 22～25 は、やや長めのモノローグを聞き、表を完成させる問題である。表が何を表しているのかを理解した上で、音声から必要な数値に関する情報を聞き取り整理する能力が求められる。留学先

のホストファミリーが営む家業の手伝いをするために説明を聞いているという場面で、内容面において受験者の負担になることは特にない。第4問Bは、4人の発話を聞き、示された条件に最も合うものを選ぶ問題である。話者の意図を正確に理解し、必要に応じてメモをとりながら、条件に合致する最善のものを判断する力が求められる。発話の内容はニューヨークのミュージカルに関する一般的な情報であったため、負担のかかるものではない。

第5問は、社会的内容を扱った長めの講義を聞き、その概要や要点を捉えまとめる力が求められる問題である。本テストが、大学での学修に必要な能力を測ることを目的の一つとしていることから、大学入学後に必要となる講義の概要や要点を理解する能力を測るという点で出題意図が理解できる問題である。しかし、hyggeに関する受験者の背景知識の程度によって理解度が左右される可能性のある問題であった。

第6問Aは、男女2人のやや長めの対話を聞き、要点を把握する問題である。何を問われているのか、どのような情報に注意して聞くべきかを理解した上で、音声からの確に必要な情報を聞き取り整理する力が求められる。対話の内容は留学中の滞在先に関するもので、受験者にとっては教科書等でもなじみのある話題である。第6問Bは、男性2人、女性2人の合計4人の討論を聞き、トピックに賛成した人の数を答える問題と、4人のうちの1名の意見を最もよく表している図を選ぶ問題の2問である。何を問われているのか、どのような情報に注意して聞くべきかを理解した上で、音声からの確に話者の意図や要点を聞き取り整理する力が求められる。高等学校の授業で推奨されているディスカッションやディベートに近い場面設定であり、内容も教科書等において頻繁に扱われる環境問題につながる内容（レシートや紙資料の電子化）で、受験者にとってなじみのあるものである。

### 3 分量・程度

読み上げの回数は2回と1回の混在となり、総マーク数は37となったが、受験者に大きな負担がかかることはなかった。また、受験者が聞き取る総語数についても、試験の時間に対して適切な分量であった。難易度の高い問題が部分的に含まれていたが、全般的には、学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえた、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが必要となる、標準的で良質な問題が出題されていた。

第1問Aでは4問が出題された。全体的に標準的な出題で、分量も難易度も受験者の大きな負担となるものはなかったが、問3と問4は受験者にとってやや難易度が高かったと思われる。第1問Bでは3問が出題され、各設問に使用された語数は12語程度と受験者に負担がかからない適切な分量であった。いずれの問題も取り組みやすかったと思われる。

第2問では4問が出題された。それぞれ30語程度の対話であり、受験者にとっては取り組みやすい適切な問題であったと思われる。

第3問では6問が出題された。それぞれ50語程度の対話であった。流れる音声は1回になったが、各対話の前後に長めの時間が設定されていたため、受験者への負担はさほど大きくならなかった。問13については、記載されている場面設定だけでは本文の内容がイメージしにくかったことに加えて、情報が複雑なものとなっていたために難易度が高かったが、それ以外の問題については標準的な難易度であったと思われる。

第4問Aの問18～21では、90語程度のモノログが出題された。受験者が考える時間もやや長めに設定されており、適切な配慮がなされていた。内容は本テストの問題作成方針に沿った適切なものであったが、数値を扱う問題であったため、やや難易度が高かったと思われる。問22～25は、70語程度のモノログが出題された。細かな部分の聞き取りが必要とされ、やや難易度は高かったと思われる。第4問Bは一人当たり40語程度の、4人によるモノログが出題された。リード文の後に状況と条件を読む時間が適切に設定されていた。的確な判断力が要求される問題であったため、やや難易度が高かったと思われ

る。

第5問では300語程度の講義が出題された。リード文の後及び講義の前半終了後に、それぞれ1分程度の時間が設けられており、受験者が問いや図表を読んだり、解答したりする時間は適切であった。また流れる音声は、実際の講義の場面に合った読み方となっていたため、受験者にとっては聞きやすいものであったと考えられる。しかし、社会的な内容であったことに加え事前に目を通す範囲についてリード文から読み取ることが難しかったため、受験者にとってはやや難易度が高かったと思われる。

第6問Aでは180語程度の対話が出題された。リード文の読み上げ後から問題音声流れるまでに十分な時間があつたため受験者の負担は大きくなることはなく、適切な出題であった。第6問Bでは、190語程度の討論が出題された。音声の前後に長めの時間が設定されており、受験者が考える時間は適切に設けられていたが、話者の一人であるYasukoが日本人であると想定できたことから、対話の内容を理解する上で受験者が文化的なコンテクストを反映させた可能性があること、また討論における「中立」の立場に慣れていなかった可能性もあることなどが、話者の立場を判断する際の迷いにつながったものと思われる。

#### 4 表現・形式

イラストや英語の語句、文による多肢選択の設問形式で、説明を聞きながら情報を整理して図表に情報を付加したり、ワークシートにメモを取ったりするなど、高等学校や大学での英語による授業の場面等が適切に設定されていた。第2問から第6問までは、モノログや対話の場面や状況が日本語で示され、コミュニケーションの場面を想像しやすい配慮がなされていた。選択肢やイラスト、図表、ワークシートも可能な限り分かりやすくシンプルにする工夫がなされていたと言える。使用された英語の表現は学習指導要領に示された範囲内の表現であり、アメリカ式発音とイギリス式発音、英語を母国語としない話者による読み上げが混在していた。6問から成る大問は、短いモノログや対話を2回聞くものから、長めのモノログや対話を1回のみ聞くものまで、難易度の比較的低いものから高いものへと配列されている一方、基礎的な内容の問題にも3点から4点の配点があり、幅広い受験者層に対応するよう工夫されていた。

第1問Aの SCRIPT と選択肢には比較的平易な表現が使われており、音声は2回流れるため比較的容易だが、音声的な理解だけでなく状況を判断する力を問う良問であった。問3や問4では、文脈からの状況判断や音声的な違いの聞き分け、選択肢の正確な読み取りの不足による誤答が目立った。第1問Bは、状況に合うイラストを選択する問題であり、イラストもおおむね分かり易かった。問5は、almostの聞き取りができなかったことと意味の理解不足が誤答につながった可能性がある。

第2問は、対話の場面が簡潔な日本語で問題用紙に示されており、短い対話の後に流れる質問に合致するイラストを選択する問題である。問10のように対話の内容から“these”や“this”を推測させる問題も、“dirty”や“sunny”という明確なキーワードから正答を選択できるように工夫されていた。

第3問は、音声は一度のみ流れ、全ての対話がA—B—A—B形式であった。対話の場面（簡潔な日本語）と質問（英語）が問題用紙に示されており、対話を聞いて質問の答えを選択肢から選ぶ問題である。問14ではアメリカ英語でよく使用される“I sure did.”のような口語表現や、問15と問17ではイギリス式発音を使用するなど、音声上の多様性にも富んでいた。しかし、問13では、“boxes”の大きさ等を具体的にイメージしにくかったことや、問15では2往復の対話を聞きながら読むには長めの選択肢であったことから、「聞く力」以外の負荷が過度にならないよう引き続き配慮をお願いしたい。

第4問Aでは、あらかじめ問題文とグラフを読む時間が与えられ、音声は一度のみ流れる。日本語で書かれた問題文に場面が示され、モノログを聞きながらグラフに当てはまる情報を語句の選択肢から選ぶ問題である。“exactly half that percentage of students”や“came after…”などの表現を聞き取れる

かどうかが鍵となるが、4つの解答が互いに関連しているため、4問完答で4点という配点は妥当であると言える。モノローグは、グラフのタイトルや選択肢となっているラベルを述べるところから始まり、受験者に聞く準備をさせる配慮がなされていた。英語自体にそれほど難しい語句は使用されていないが、最後まで注意して聞くことによって正解できるように工夫されていた。第4問Bでは、状況と条件を読む時間が与えられ、音声は一度のみ流れる。状況と条件は日本語で示されており、4人のモノローグを聞いて条件に当てはまる選択肢を選ぶ問題である。「人気がある」ということを伝えるために“(it) has very high ticket sales.”や“I’ve seen some good reviews about it.”といった表現を用いるなど工夫されている。

第5問では、音声は一度のみ流れる。長めのモノローグ（講義）を聞き、ワークシートに付加する情報と概要を把握する問題の後、講義の続きを聞いて、新たに示されたグラフと講義全体の関連を理解する問題が続く。問32までと33は別々に解答する問題であるかのように見えるが、問33には「講義全体の内容から」と最初のモノローグの理解をも問う指示があり、問33と表をどのタイミングで読んでおくべきか、受験者の混乱を招いた可能性がある。

第6問では、音声は一度のみ流れる。第6問Aでは、二人の対話を聞き、話し手の意図と対話の流れを捉える力を測る問題であった。対話中の“it doesn’t matter”という表現が、選択肢では“it shouldn’t be a priority”となるなど、言い換えられた表現を理解する力も求められた。第6問Bでは、男女2人ずつ計4人の意見交換を聞き、最終的に賛成した人数と男性のうちの一人の発言の趣旨を図表から選ぶ問題である。男性二人の声が若干似ており、誰が話しているのかが、次の話者の呼びかけによって判明することが多かったことが、受験者への過度な負荷となった可能性がある。また、恐らく日本人女性の設定であるYasukoの“I don’t know what to think, Luke. You could request a paper receipt, I guess.”という発言が、「実際にはレシートを電子化に賛成しているが、Lukeへの気遣いから曖昧な返事をしているのだろう」という憶測や様々な解釈を生んだ可能性がある。

## 5 まとめ（総括的な評価）

### (1) 形式等の特徴

本テストにおいては、実施時間は30分のままセンター試験からの変更はなかったが、1問当たりの配点に1～4点の幅を持たせるとともに、読む回数も2回読み（第1問と第2問）と1回読み（第3問～第6問）に分け、満点は100点となった。本テストでは「リーディング」と「リスニング」がともに100点満点で構成されていたことから、より英語4技能のバランスを意識したものであったと評価する。また設問や場面設定の指示が日本語で記載されている点は、測る力を「聞く力」に集約するための措置として有効である。

### (2) 学習指導要領との整合性

本テストでは、モノローグ、2人の対話、講義、4人の討論といった様々な場面や状況が設定された。また、イギリス英語や英語を母国語としない話者の音声が入り入れられた。これらの点は、学習指導要領に定める「内容」や「言語材料」に基づき、高等学校の学習指導において留意されるべき事柄が明確に出題に反映されたものであったと評価する。

### (3) 高等学校の授業改善への影響

本テストでは、与えられた状況やコミュニケーションの場面における発話から情報を整理し、内容全体から話者の意図等を把握する、思考力・判断力・表現力等を問う出題が多く見られた。

授業では、様々なタイプの英語を聞いたり読んだりする活動はもとより、聞いたり読んだりした内容について話したり書いたりするような活動を十分に行うことにより、話される内容を一度で正確に聞き取る力の伸長が図られる。その意味で本テストは、高等学校の授業では「聞く力」だけに特化した指導

ではなく、残りの3技能と統合した言語活動を行うべきというメッセージを持つと思われる。また本テストでイギリス英語や英語を母国語としない話者の音声が含まれたことは大変良い傾向である。インターネット等を活用し、実際のコミュニケーションにおける現代の様々な英語の音声に触れる機会を設けるなど、授業で扱う教材の工夫が必要となるだろう。

発言者の主張を表すグラフを選ぶ問題（第6問の間37）は、高等学校での教科横断型指導や課題探究型指導の充実にもつながるものであった。英語をアウトプットのツールとして生徒が主体的に使う場面を想定した授業設計や指導の在り方が高等学校の現場に求められていると考える。

#### (4) 要望・提案

今後とも、日常生活で用いられる自然な表現を採用したり、大学生活等におけるコミュニケーションの場面や話者の多様性を想定したりする一方、受験者の生活環境や居住地区の多様性に配慮した作問をしていただきたい。また、ジェンダーに配慮した作問を継続していただくとともに、受験者の持つ背景知識の程度により、聞き取る内容の理解に大きな差が出ないようにしていただきたい。設問に直接関係しない限り、写真やイラストなど背景知識を補うものがあるとよいだろう。

大問6の4人の討論の場面は、姿が見えない4人の話者をより明確に識別できる音声的な工夫をしていただきたい。また、中立の立場の話者がいる場合には、そのことが明示的になるようにしていただきたい。

読み上げ回数については、国内外で実施されている英語の試験の多くが1回読みであることから、全て1回読みにして問題数を増やすことで、本テストの妥当性 (validity) と信頼性 (reliability) を高めることができるかもしれない。しかしながら、第1問と第2問の2回読みの部分で英語の音声に慣れて解答のリズムができるため、現在の2回読みと1回読みの混在が、受験者にとって解答しやすいものであるとも考えられる。状況や設問等を読む時間が最初に与えられる問題については、多様な受験者に配慮しながら、黙読時間とどこまであらかじめ目を通すべきかを可能な限り示す工夫をしていただきたい。

出題内容と設問数、配点一覧（\*は、全部正解の場合のみ点を与える。）

設問及び出題内容				設問数		配点		
大問	中間	小問	出題内容概要			小問 配点	配点	
第1問	A	1-3	モノログ（短）：状況に合う短文を選択	4	7	4	16	25
	B	4-7	モノログ（短）：状況に合うイラストを選択	3		3	9	
第2問		8-11	対話（短）：対話後の質問に合うイラストを選択	4	4	4	16	16
第3問		12-17	対話（短）：書かれた質問に合う答えを選択	6	6	3	18	18
第4問	A	18-21	モノログ（中）：グラフと表への情報付加	4	9	4*	4	12
	A	22-25		4		1	4	
	B	26	モノログ（中）：4人のモノログを聞き状況と条件に合う答えを選択	1		4	4	
第5問		27	モノログ（長）：講義を聞き、ワークシートへの情報付加、要約選択	1	7	3	3	15
		28-29		2		2*	4	
		30-31		2		2*	4	
		32		1		4	4	
		33		1		4	4	
第6問	A	34-35	対話（長）：対話を聞き要約選択、応答選択	2	4	3	6	14
	B	36-37	対話（長）：4人によるディスカッションを聞き賛否数、意見を表す図を選択	2		4	8	
第一日程平均点 56.16 点				37		100		

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国英語教育研究団体連合会

#### 1 前 文

1990年から2020年まで実施された「大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）」が廃止され、2021年より「大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）」が新たに開始された。外国語〔英語〕については、幾つかの変更点があった。

従来の「筆記」が「リーディング」に変更され、配点も200点から100点となり、さらに「発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しない」など出題内容についても変更があった。「リスニング」については名称の変更はなかったが、配点が50点から100点へと倍増し、「多様な話者による現代の標準的な英語を使用する」という観点から「イギリス英語」も使用され、さらに「1回読み」問題が導入されるなど内容的な変更があった。「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの出題方針が色濃く反映されたものとなり、形式・内容ともにこれまでのセンター試験とは大きく変わっている。2回の試行調査が実施されたものの、初めての試験形式に臨んだ受験者たちの不安や緊張感は察するに余りある。今後も、必要な情報を迅速に丁寧に開示していただくことを切に希望する。

高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）では「実践的コミュニケーションの育成」に重点が置かれ、高等学校にける英語教育においては、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能を総合的に採り入れた授業形態が一般に進みつつある。また、現行の学習指導要領下では「英語で授業を進める」ことが明文化され、今までより一層「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」が重視される教育課程や授業が期待されている。この実践的な英語教育を推進する大きな流れの中で、センター試験へのリスニング・テスト導入が実現して15年が経過し、様々な困難を乗り越えて、今年度より共通テストの「リスニング」として新たなスタートを切ったことは、わが国の英語教育の未来にとって大きな出来事である。

大きな課題として記すべきは、今年度の稼働が予定されていた「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りである。今般の共通テストにおいては4技能のうち「読むこと」「聞くこと」のみを問うており、平成29年7月に示された「大学入学共通テスト実施方針」における「高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価する」という方向性が確立されているという状況にはなく、早急に方向性が示されることが必要である。グローバル人材の育成を目指した英語教育改革が進む機運を減じることなく、さらに加速させていくものともしてもらいたい。

2021年度の共通テスト利用大学・短期大学は、前年度センター試験時から9校増の867校と過去最多となった。内訳は、国立大学が82校、公立大学が91校、私立大学が534校、公立短期大学が13校、私立短期大学が142校、公立専門職大学が1校、私立専門職大学が4校である。今後も利用が進んでいくことが予想される。受験者数は第1日程（1月16、17日）が482,546人で、第2日程（1月30、31日）が2,025人であり、総受験者数は484,114人で前年度の527,072人から約8パーセントの減少となった。「英語（リーディング）」受験者数（昨年は筆記）は478,823人（前年度519,618人）であり、「英語（リスニング）」受験者数は476,167人（前年度512,181人）であった。リーディングは全受験者数の約99パーセント、リスニングは約98パーセントが受験しており、英語の成績が文系理系を問わず全ての受験者の大学合否に大きく関与している。

平均点は、一昨年度が31.42点（100点換算で62.84点）、昨年度は28.78点（100点換算で57.56

点) 今年度の平均点は 56.16 点であり、前年度より -1.4 点と僅かに下がったものの、ほぼ横ばいということが出来る。平均点と難易度は直結するものではないが、難易度についてもほぼ前年度並みであったと言える。

読み上げられた英語の総語数は約 1,520 語 (昨年度は約 1,142 語) で大幅に増加し、設問と選択肢の総語数は約 700 語 (昨年は約 600 語) で、こちらも増加となった。

## 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

試験問題の構成は大きく次のようなものであった。

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	25	4	A:短文内容一致問題	2
		3	B:短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	2
3	18	6	対話文選択問題	1
4	12	8	A:モノログ図表完成問題	1
		1	B:複数のモノログ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	1
6	14	2	A:2者対話文選択問題	1
		2	B:4者対話文選択問題	
合計	100	37		

大問数は昨年の 4 問に対して 6 問となり、マーク数は 12 増えて 37 となった。配点も昨年の倍の 100 点である。また、第 3 問以降の読み上げ回数が 1 回になり、センター試験と大きく変化した部分でもある。

第 1 問 短い発話を聴いて、内容に関する選択肢を選ぶ問いである。A は短い発話を聴き取り、設問の問いに最も適する選択肢を選ぶ問題。状況を要約したり、発話のやり取りから導くことのできることを判断したりする力が求められた。B では短い発話を聴いて、設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり、内容を正確に把握する力が問われた。難易度としては標準レベルであり、設定も日常的なものであり、短い発話から状況や情景を把握させ、絵という視覚情報を選択させるという設問形式は好ましいものである。ただし、短い発話であるため、やや唐突に始まる印象がある。最初の問題はできるだけイメージしやすい設定の問題から初めて、徐々に英語に耳を慣らせていくような流れが望ましい。

問 1 男性の「ジュースがもう少し欲しい」という発話を、**The speaker** を主語とそして客観的に説明する文章を選ぶ問題。

問 2 “How about ~”の表現から、話者の意図をくみ取る問題。

問 3 Yuji が卒業後どうするかを問う問題。選択肢の内容が似通っているため、正確な聴解が求められている。

問 4 発話から David の行動を時系列の点から把握する問題。

問 5 「ほとんどの人が帽子をかぶっている」という発話に合致する絵を選ぶ問題。

問 6 Nancy が「縞模様」と「動物柄」以外の T シャツを買おうとしている状況を把握し、合致する絵を選ぶ問題。

問7 少女の母親が自らの自画像を描いていることを把握し、少女の位置関係を把握し、その内容に合致する絵を選ぶ問題。

第2問 短い対話を聴き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聴いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。これまでもあった形式ではあるが、設問に示されている日本語の情報把握が重要であるため、今後受験者はこの形式に慣れておく必要がある。短い時間の中で、複合的な作業を素早く行うことを要求しているため、与えられる状況は日常生活に根差している事柄や、現代的なテーマを用いることによって、受験者にイメージしやすいものが設問とされることが望ましい。難易度としては標準レベルであるが、イラストの設定については、思考に不必要な負担をかけることのないように、今後も工夫されることを期待する。

問8 水筒の形状を把握して適合するイラストを選択させる問題。

問9 コンテストで投票すべきロボットの形状を把握して適合するイラストを選択させる問題。問8で求めている力と同種の問題。両問ともテーマは適切である。

問10 夏の地域清掃に持っていくものについて把握して適合するイラストを選択させる問題。日本語で示されている説明を把握することが前提となる問題。

問11 車いすを使用している男性が駅員にエレベータの位置を尋ねている問題。場面設定や設問内容は適切ではあるが、イラストにおけるロッカーやトイレのピクトグラムを瞬時に判断する必要があったため、戸惑った受験者もいたかもしれない。特に「ロッカー」のピクトグラムは受験者にとってはあまりなじみがないと思われる。設問上は明らかではあるが、複合的な作業を求めている以上、聴解とは離れたところでの思考が負担になることは望ましくない。その点は今後も御配慮いただきたい。

第3問 短い対話を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第2問と同様に、日本語で示されている場面の情報を把握し、概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。またこの問では、出題方針で予告されていた「イギリス英語」が使用されている。短い対話を聴き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聴いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。「多様な話者による現代の標準的な英語」を使用するという点で、新傾向は好ましいものであると考えるが、アメリカ英語でのやり取りが続いている中で、唐突に始まってしまうと受験者にも戸惑いが生じる。今年度は「イギリスにいる弟」という設定であるが、こういった形を含めて受験者が取り組みやすい状況を作っていただけるとありがたい。さらに第3問以降は「1回読み」ということもあるため、聴解力を問う問題としてさらに慎重な作問をお願いしたい。

問12 ミュージカルの観劇に行けるように調整しようとしている対話。

問13 夫婦が台所で食料品を片づけている場面で、その食料品を格納する位置関係を把握する問題。

問14 会議がキャンセルになったことについてのeメールのやり取りを把握する問題。

問15 「イギリスにいる弟が、東京に住んでいる姉と電話で話をしている」という場面設定においてアメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている。今回の「イギリス英語を使用する」という方針を反映したものであるが、新しい傾向の出題に戸惑った受験者もいたかもしれない。場面設定は適切であった。

問16 野球観戦のチケットについてやり取りする問題。

問17 ある俳優を通りで見かけた場面でのやり取りを把握する問題。問15と同様にここでもアメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている。多様な話者による現代の標準

的な英語の理解を求める傾向は好ましいものであるが、それらが使用される設定や必然性について、受験者が唐突な印象を受けることなく問題に取り組むことのできるように、さらに御考慮いただきたい。

第4問 Aは読まれる説明を聴き、図表を見ながら空所を埋めていく問題。数字や数についてメモを取って聴き取る力が問われている。Bでは、4人の話者の説明を聴き、設問に合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聴き、情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は、日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましいと考えているが、解答にはある程度の時間がかかることも確認されたい。問題文と図表を読む時間は与えられているが、聴いた内容から設問に取り組む時間はやや短い。聴いているうちにどの人の発言だかわからなくなった、せっかく聴きとれても、正解にたどり着かなかったという受験者の声も聞こえてきている。上にも述べたとおり、聴解力とは異なる点で受験者に負荷をかけすぎる出題は再考頂きたい。また、出題の方向性は好ましいものであるので、解答時間についてさらに検討をお願いしたい。

問 18~21 「学校外で学生たちはどのように過ごすか？」という問いに対する先生の講義を聞いてグラフや表を完成させる問題。

問 22~25 「留学先のホストファミリーが経営しているDVDショップで、DVDの値下げについての説明を聞いている場面」でのやり取りを聴き、表を完成させる問題。最後に付加される「星印がついた商品は人気があるため、一律10パーセントオフ」という情報が、1回読みで把握するには難しいと感じた受験者はいたと思われる。

問 26 旅行先のニューヨークで見るミュージカルを一つ決めるために、4人の話者の提案を聴きとる問題。示されている表を活用することを前提としている部分については、望ましい設定であると考えられる。

第5問 「アメリカの大学で、デンマーク人の幸福観についての講義」を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用して、ノートテキングをすることが必要になる。聴き取った内容とグラフから読み取れる情報を組み合わせて要点を把握する複合的な作業を必要とする。日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましい出題であるが、前問と同様に、問題文と図表を読む時間は与えられているが、聴いた内容から設問に取り組む時間はやや短い。第4問同様、せっかく聴きとれても、正解にたどり着かなかったという受験者の声も聞こえてきており、その点は再考をお願いしたい。

問 27~32 ワークシートに入るべき事項を選択肢から選ぶ問題と講義の内容を選択させる問題。1回読みであるため、情報の処理時間及び解答行動に時間を要し、次の設問への十分な準備が難しかったと思われる。

問 33 図から読み取れる情報と講義全体の内容から言えることを選択する問題。問題自体は平易であるが、前述のように設問に十分対応する時間があつたかどうかについて再考をお願いしたい。

第6問 Aは2人の会話を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Bは4者の会話を聴き取り、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。それぞれの話者の賛否の立場を正確に把握し、意見に合う図表を判断する力が問われた。問題の方向性としては好ましいが、4者の会話において「誰が話しているか」を把握することが難しかった。名前を呼びかけているため、話者の特定は可能だが、一定の長さの会話文であるため誰が話しているかを把握し続けるのを難しく感じた生徒が少なくないと思われる。前問と同様に、せっかく聴きとれても、正解にたどり着かなかったという受験者の声も

聞こえてきており、その点は再考をお願いしたい。

問 34～35 日本語で書かれた状況を踏まえて、話者の主張の要点と合致する選択肢を選ぶ問題。

問 36 4人の話者のうち、何人が賛成したかを問う問題。

問 37 会話の内容を踏まえて、ある話者の意見を反映している表を選択する問題。

### 3 まとめ

「大学入学共通テスト問題作成方針」に示されているように、「高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力、判断力、表現力を明確にした上で問題を作成する」という方向性は今回の共通テストにおいて明らかに反映されている。こういった傾向は望ましいものであり、教育現場での授業改善にも確実に繋がっていくものであると評価したい。ただし、思考力を問うことが目的でありながら、結果的に情報を処理する能力や、さらにそれを速く行うことを求めるような問題設定となってしまうことは避けるべきである。今年度の問題では、結果的に情報を整理させる要素が強い設問や、設問間の時間が十分に取れないことによって思考する時間を確保するのが難しい設問、場面設定により話者の特定に苦勞する、といった設問もあった。1回聴き取った内容について複数の資料を読み解く点で受験者への負荷は高まっている。より基本的な聴解力が身につけているのかを評価するような問題作成もお願いしたい。「知識・技能」を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力等を中心に評価する試験問題の作成に当たっては大変な御苦勞があるものと推察するが、これまでのセンター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしながら、受験者の学びの動機をさらに高める性質の作問をお願いしたい。グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められている背景を踏まえ、受験者が身につけるべき資質・能力を育成できるように、主体的な学びを促進する試験が安定的に作成されることを希望する。